

平成28年度 業務実績報告書

平成29年6月

愛知県公立大学法人

(1) 現況

① 法人名

愛知県公立大学法人

② 設立年月日

平成19年4月1日

③ 所在地

長久手市茨ヶ廻間1522番3

④ 役員の状況

理事長 鮎京 正訓

副理事長 2名

理事 3名

監事 2名

⑤ 設置大学

・愛知県立大学

(学部)

外国語学部、日本文化学部、教育福祉学部、看護学部、情報科学部

(研究科)

国際文化研究科、人間発達学研究科、看護学研究科、情報科学研究科

(全学教育研究組織)

入試・学生支援センター、教育支援センター、教養教育センター、

学術研究情報センター、地域連携センター、看護実践センター

・愛知県立芸術大学

(学部)

美術学部、音楽学部

(研究科)

美術研究科、音楽研究科

(全学教育研究組織)

芸術教育・学生支援センター、芸術創造センター、芸術情報センター、芸術資料館

⑥ 学生数 (平成28年5月1日現在)

・愛知県立大学 (新・旧)

学部学生 3,299名

大学院学生 226名

・愛知県立芸術大学

学部学生 810名

大学院学生 168名

⑦ 教職員数

(教員)

・愛知県立大学 219名

・愛知県立芸術大学 87名

(職員)

・法人事務局 190名

(2) 大学の基本的な目標等

① 愛知県立大学

愛知県立大学は、平成 21 年 4 月に当時の愛知県立大学と愛知県立看護大学を統合し、「豊かな人間性と高い知性を備え、かつ、国際性、創造性及び実践力に富む有為な人材を育成する」ことを目指した新愛知県立大学としてスタートした。現在は、長久手キャンパスと守山キャンパスを合わせて 5 学部 10 学科と大学院 4 研究科から構成されている。

○ 愛知県立大学の理念

- 1 21 世紀の「知識基盤社会」において、教員と学生が相互に啓発し合いながら「知の拠点」を目指す。
- 2 「地方分権の時代」における公立の大学として、良質の研究とそれに裏付けされた良質の教育を行い、その成果を社会に還元する。
- 3 「成熟した共生社会」の実現を目指して、教育研究と地域連携を進める。

② 愛知県立芸術大学

芸術は、太古から人間の暮らしに潤いを与え続け、常に人間の歴史とともにあった。人間は、芸術によって、自己を革新し、硬直する人間の思考を柔軟なものにしてきた。そして、優れた芸術は人間に知的な飛躍をもたらすものである。

愛知県立芸術大学は、独自の豊かな文化・芸術の伝統が育まれてきた愛知県に創設された「芸術の場」であり、当地域の芸術文化を育み、県内外に発信していくことが求められている。そのために本学は、開学以来培ってきた歴史を継承し、更に発展させていく必要がある。

愛知県立芸術大学は、個性的で魅力ある大学として、また、愛知が生んだ芸術文化の拠点として、地元愛知はもとより国際的にも開かれた芸術文化の核となることを目指し、大学の理念を次のとおりとする。

○ 愛知県立芸術大学の理念

- 1 学部から大学院までの一貫した教育研究体制をとることにより、芸術家、研究者、教育者など芸術文化に携わる優れた人材の育成を目指す。
- 2 広い視野を持った高度な芸術教育を通して、国際的な芸術文化の創造の核となることを目指す。
- 3 教育・産業・生活文化など様々な分野で本学の持つ芸術資源を有効に活用し、地域社会と連携して、芸術文化の発展に貢献することを目指す。

○ 法人の総括と課題及び特記事項

第2期中期計画4年目となる今年度は、中期計画88項目について取り組んだ結果、教育研究活動を始め2大学の管理運営全体について、おおむね年度計画を達成した。なお、大項目ごとの特記事項は、以下のとおりである。

1 大学の教育研究等の質の向上

1-1 愛知県立大学

(1) 教育

○ 入学者選抜

- ・全学部・研究科のアドミッション・ポリシーの全面改定、ホームページにおける公開
- ・オープンキャンパス、学部単位のミニオープンキャンパス、「イメージ合宿」など様々な取組の結果、一般入試前期日程の志願者数が増加(前年度比101名増の1,965名)

○ 学部・大学院教育

- ・ネイティブ教員による「教養英語相談室」を長久手キャンパスに設置
- ・29年度より新グローバル人材育成事業として、「グローバル実践教育事業」と「グローバル学術交流事業」の2事業の全学実施を決定
- ・本学初のダブル・ディグリー協定を台湾静宜大学人文社会科学部台湾文学学科と締結(外国語学部)
- ・教職員・学部生・院生・留学生・卒業生が学科を横断して集う「県大 日本文化学部の日」を初めて開催(日本文化学部)
- ・「次世代ロボット研究所」を開設し、企業等との共同研究を開始(情報科学部)
- ・生涯発達研究所事業として、教員・院生の協働による連続講座を実施(人間発達学研究科)
- ・33年度から大学院に保健師高度実践養成課程を開設することで合意(看護学研究科)
- ・前年度に続き、博士課程を早期修了した内部進学による博士学位取得者が誕生(情報科学研究科)

○ 学生への支援

- ・図書館と学部との共同企画展示等による情報リテラシー教育の充実
- ・新たに名古屋市交通局と連携したテーマの学生自主企画研究を募集、3件を採択
- ・グローバル人材プログラムの授業「地域ものづくり学生共同プロジェクト」において、学生が海外展開を目指す地元企業9社と連携し、多言語PR記事作成や商品企画を実施
- ・日本文化学部事業「留学生的愛知ガイドづくり」として、留学生・日本人学生が県内名所を訪問し、多言語パンフレット作成による愛知県の魅力発信を実施
- ・専門的なキャリアを見据えたプログラムを含む協定をオーストラリアの大学と初めて締結

(2) 研究

- ・研究者データベースの本格運用開始
- ・外部コンサルタント会社による科研費申請サポートの充実(面談件数: H27 10件→H28 17件)
- ・研究支援担当職員向けスキルアップ研修を実施

(3) 地域連携・貢献

- ・愛知県県史編さん室と日本文化学部の共催による展示、講演会、連続講座を実施
- ・全国障害者芸術・文化祭あいち大会と情報科学部の連携によるシンポジウム等を実施
- ・愛知県、名古屋市立大学との協働による「あいち地域づくり連携大学」を実施
- ・「知の拠点あいち」における重点研究プロジェクト(3件)への参画が決定
- ・子育て支援「もりっこやまっこ」事業において10周年記念事業を実施

1-2 愛知県立芸術大学

(1) 教育

○ 入学者選抜

- ・作曲専攻作曲コースにおいて自己推薦特別入試を新たに実施

○ 学部・大学院教育

- ・パリ=ソルボンヌ大学とのコチュテルの協定に基づき、音楽分野で日本初の博士号学位取得者を輩出
- ・海外大学との演奏交流事業や瀬戸内国際芸術祭での協定校7校との合同展覧会を実施
- ・あいちトリエンナーレ2016に参画し、他芸術大学との連携や海外アーティストとの共同制作を実施

○ 学生への支援

- ・SNS等を活用した国際交流に関する情報の発信
- ・新たにミラノ大学との協定を締結
- ・ワイマール・フランツ・リスト音楽大学との演奏交流事業に学生11名を派遣
- ・「芸術学生のための合同企業説明会」の規模拡大(H27:6大学→H28:7大学、H27:41社→H28:55社)
- ・宗次ホールとの連携協定による演奏家の自立支援プロジェクト「エマージングコンサート」の実施
- ・学生相談コーディネーターの雇用による学生相談体制強化、修学支援充実

(2) 研究

- ・曼殊院所蔵「不動明王像」(国宝)、高野山明王院所蔵「不動明王二童子像」(重要文化財)の模写事業の開始を決定(H29～)
- ・日本学術振興会の研究拠点形成事業に芸術大学として初めて採択

(3) 地域連携・貢献

- ・一般社団法人神戸財団とのセラミックコンペティション事業の実施
- ・寄附金約56百万円(寄附金収入計約73百万円)を財源に創立50周年記念事業を実施(計約27,000人来場)
- ・サテライトギャラリーの全展覧会をあいちトリエンナーレ2016パートナーシップ事業として実施し、過去最高の7,984人が来場

2 法人運営の改善

- ・29年度予算編成に向けた、理事長・学長トップマネジメントによる予算編成手法の試行
- ・「事務職員人材育成方針」を全面改正し、名古屋大学との人事交流開始、県への研修生派遣決定(H29～)
- ・職員の「短期海外研修」の本格実施(2名、カンボジア・ベトナム)と学内報告会の実施
- ・職員のワーク・ライフ・バランス推進のため、ノー残業デーを導入
- ・情報基盤ネットワークシステム(Airis)の更改によりネットワークシステムを統合

3 財務内容の改善

- ・芸術大学創立50周年記念事業における寄附額が記念事業の支出総額約56百万円を上回る累計総額約73百万円(706件)に到達
- ・29年度より全学実施となる「グローバル実践教育事業」への外部資金を獲得
- ・受託研究費や科学研究費補助金等を含めた外部資金の獲得

[単位：件／千円]

区分	年度	県立大学		芸術大学	
		件数	金額	件数	金額
奨学寄附金 (利息含む)	25	9	11,600	6	4,205
	26	12	12,901	293	39,453
	27	11	9,200	426	36,421
	28	18	19,400	257	27,055
受託研究費	25	1	210	4	6,666
	26	3	4,492	8	11,410
	27	5	5,446	10	12,139
	28	7	5,388	7	9,767
共同研究費	25	12	9,823	1	5,000
	26	13	11,713	1	4,482
	27	12	11,090	1	2,500
	28	11	16,417	1	1,935
科学研究費 補助金等	25	153	167,202	8	7,969
	26	155	143,373	9	13,866
	27	149	130,071	11	13,433
	28	148	124,767	9	15,640
受託事業費等	25	3	1,782	7	4,168
	26	2	2,995	13	13,523
	27	3	3,556	11	13,997
	28	1	308	14	26,208
その他補助金	25	4	86,441	0	—
	26	4	77,892	3	1,700
	27	5	67,976	10	3,540
	28	7	54,383	9	3,338
計	25	182	277,058	26	28,008
	26	189	253,366	327	84,434
	27	185	227,339	469	82,030
	28	192	220,663	297	83,943

注1) 科学研究費補助金等の金額については、当該年度の分担金相当額を含めた実受入金額とし、転出及び他機関へ送金する分担額は除く。

注2) 金額については、千円未満を切り捨て。

・一般管理費比率

法人情報基盤更新、警備・植栽維持管理委託にかかる経費等の増加により、一般管理費比率は7.7%(H27:7.1%)となり、前年度比0.6ポイント増加

4 自己点検・評価及び情報の提供

- ・創立70周年記念事業の企画・実施による教育研究活動等の発信（県大）
- ・創立50周年記念事業の企画・実施による大学ブランド知名度向上の推進（芸大）
- ・法人全体における広報人材育成プロジェクトの実施

5 その他業務運営

- ・学務部職員研修としてLGBT研修を実施（県大）
- ・eラーニングを活用した職員向けコンプライアンス研修や、教職員対象の研究倫理に関する学習コースの受講促進
- ・クラウドによるメールシステムやシンクライアント導入による情報セキュリティの向上

ただし、計画の一部については、引き続き取り組むべき課題を残した。課題については、次のとおりである。

- ・（財務内容の改善）一般管理費の対業務費比率を前年度対比引下げ

項目別の状況

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 愛知県立大学

(1) 教育に関する目標

中期目標	<p>ア 入学者選抜 アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に基づき、地域社会や国際社会において活躍する資質を備えた質の高い入学者を確保する。</p> <p>イ 学部教育 (ア) 教養教育においては、自ら課題を探究し、広い視野で柔軟かつ総合的に判断し解決することのできる能力や、他者の文化を理解・尊重し、コミュニケーションをとることのできる能力、語学力など、グローバル化や情報化等に適応しうる「学士力」の基礎を涵養する。 (イ) 専門教育においては、時代や社会の要請に的確に対応し、各学部・学科の人材養成の方針に沿って、カリキュラム等を含めた教育体制の個性化や、教育内容の最新化・体系化を図ることにより、それぞれの専門分野における知識・スキルや創造的思考力を備えた人材を育成する。 (ウ) 自己点検・評価、学生評価、外部評価等に基づくファカルティ・ディベロップメントを通じて、教員の教育力の向上を図る。 (エ) 学生の主体的・積極的な学びを促し、学修力の向上を図る。</p> <p>ウ 大学院教育 各研究科の養成する人材像を明確にし、その特性を踏まえた教育内容・方法の充実に取り組み、高度専門職業人や研究者等、知識基盤社会の中核となる人材を育成する。</p> <p>エ 卒業認定 卒業生と修了生の質を保証するため、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）を、時代や社会の変化に対応して適切に見直し、適正な成績評価基準により卒業認定を行う。</p> <p>オ 学生への支援 学生の学習環境の整備や、地域貢献活動・国際交流、キャリア形成、健康管理、経済的な支援などを通じて、学生の学ぶ意欲を高めるとともに、安心して修学を継続できるようにする。</p>
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
ア 入学者選抜 1 アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）について、時代や社会の変化に対応するよう、適切に見直す。	・新入学者選抜制度を含めた社会の変化に対応するよう、アドミッション・ポリシーの見直しを行う。	「年度計画を十分に実施している」 ・中央教育審議会の「3ポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」に基づき、将来ビジョン検討委員会を中心に全学部・研究科のアドミッション・ポリシーを全面的に改定し、ホームページで公開した。	
2 出願状況や入試結果の分析を通じて入学者選抜方法の見直しを行うことにより、質の高い入学者を確保する。	・出願状況や入試結果の分析を通じて、入学者選抜方法及び募集人員の見直しを行う。	「年度計画を十分に実施している」 ・27年度に決定した、30年度入試からの情報科学部推薦入試における英語外部試験導入について、対象となる外部英語検定試験の選定や換算表の作成を行い、ホームページにおいて公表した。また募集人員の見直しを行い、29年度入試より英米学科と看護学部において一部変更し実施した。 [データ集1・2]	

<p>3 目的意識や学習意欲の高い学生を確保するため、各種メディアの活用など戦略的な入試広報計画を策定し実施する。</p>	<p>・各種メディア、ガイダンスを活用し、入試広報計画に基づき、入試広報活動を実施する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>・入試広報計画に基づき、以下の入試広報活動を実施した。</p> <p>朝日新聞の大学ランキングタイアップ企画や中日新聞の広告と Web がセットとなった進学ナビなど各種メディアを活用した広報活動を実施するとともに、進学ガイダンスについては、地方会場での開催 5 件を含む計 27 件を実施した。オープンキャンパスにおいては自由参加と予約参加のコース分けを調整するなど、幅広い参加を促す工夫により過去最多の 5,777 名（前年比 111.9%）が来場した。また、引き続き各学部単位のミニオープンキャンパス（参加者：生徒 58 名、教諭 27 名、保護者 18 名）や外国語だけで 2 日間を過ごす「イマージョン合宿」[参考資料 1]を実施するなど、高校生等に向けた大学体験の機会を提供した。このような様々な取組を行った結果、一般入試前期日程の志願者数は 1,965 名（前年度より 101 名増）となった。</p> <table border="1" data-bbox="1053 745 1949 1533"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25 年度 (26 年度入試)</th> <th>26 年度 (27 年度入試)</th> <th>27 年度 (28 年度入試)</th> <th>28 年度 (29 年度入試)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパス (OC)</td> <td>3,813 名</td> <td>4,089 名</td> <td>5,162 名</td> <td>5,777 名</td> </tr> <tr> <td>入学者アンケートにおける OC 参加者の割合</td> <td>45.4%</td> <td>49.0%</td> <td>51.7%</td> <td>54.7%</td> </tr> <tr> <td>高校からの大学見学</td> <td>26 件 1,321 名</td> <td>32 件 2,343 名</td> <td>32 件 1,899 名</td> <td>24 件 1,437 名</td> </tr> <tr> <td>高校への出張ガイダンス・模擬授業等</td> <td>37 件 1,390 名</td> <td>39 件 1,833 名</td> <td>50 件 1,870 名</td> <td>53 件 2,074 名</td> </tr> <tr> <td>学外での進学ガイダンスへの参加 (うち地方会場)</td> <td>20 件 1,093 名 (-)</td> <td>25 件 1,247 名 (5 件 34 名)</td> <td>36 件 1,528 名 (6 件 54 名)</td> <td>28 件 1,005 名 (5 件 35 名)</td> </tr> <tr> <td>入学志願者合計 (大学院含む)</td> <td>3,197 名</td> <td>3,337 名</td> <td>3,353 名</td> <td>3,181 名</td> </tr> <tr> <td>(うち一般入試前期日程)</td> <td>(1,953 名)</td> <td>(1,952 名)</td> <td>(1,864 名)</td> <td>(1,965 名)</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25 年度 (26 年度入試)	26 年度 (27 年度入試)	27 年度 (28 年度入試)	28 年度 (29 年度入試)	オープンキャンパス (OC)	3,813 名	4,089 名	5,162 名	5,777 名	入学者アンケートにおける OC 参加者の割合	45.4%	49.0%	51.7%	54.7%	高校からの大学見学	26 件 1,321 名	32 件 2,343 名	32 件 1,899 名	24 件 1,437 名	高校への出張ガイダンス・模擬授業等	37 件 1,390 名	39 件 1,833 名	50 件 1,870 名	53 件 2,074 名	学外での進学ガイダンスへの参加 (うち地方会場)	20 件 1,093 名 (-)	25 件 1,247 名 (5 件 34 名)	36 件 1,528 名 (6 件 54 名)	28 件 1,005 名 (5 件 35 名)	入学志願者合計 (大学院含む)	3,197 名	3,337 名	3,353 名	3,181 名	(うち一般入試前期日程)	(1,953 名)	(1,952 名)	(1,864 名)	(1,965 名)	
区分	25 年度 (26 年度入試)	26 年度 (27 年度入試)	27 年度 (28 年度入試)	28 年度 (29 年度入試)																																							
オープンキャンパス (OC)	3,813 名	4,089 名	5,162 名	5,777 名																																							
入学者アンケートにおける OC 参加者の割合	45.4%	49.0%	51.7%	54.7%																																							
高校からの大学見学	26 件 1,321 名	32 件 2,343 名	32 件 1,899 名	24 件 1,437 名																																							
高校への出張ガイダンス・模擬授業等	37 件 1,390 名	39 件 1,833 名	50 件 1,870 名	53 件 2,074 名																																							
学外での進学ガイダンスへの参加 (うち地方会場)	20 件 1,093 名 (-)	25 件 1,247 名 (5 件 34 名)	36 件 1,528 名 (6 件 54 名)	28 件 1,005 名 (5 件 35 名)																																							
入学志願者合計 (大学院含む)	3,197 名	3,337 名	3,353 名	3,181 名																																							
(うち一般入試前期日程)	(1,953 名)	(1,952 名)	(1,864 名)	(1,965 名)																																							
<p>イ 学部教育</p> <p>4 教養教育センター（学士力を涵養することを目的とし、外国語科目、教養科目、キャリア科目、スポーツ科目等を企画運営する）を設置して責任体制を構築し、教養教育に関する企画・運営を行う。</p>	<p>・履修状況の分析に基づいて、教養教育科目の適切、効果的な開講計画を立てて運営する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>・前年度までの履修者数や抽選の実施状況等を踏まえた上で、教授者、時間割を調整した。新生ガイダンスではスマートフォン等を使用した UNIPA（※）での履修登録体験により、履修登録ミスの減少を図った。 （※UNIVERSAL PASSPORT：大学内の様々な情報を提供する学生向けポータルサイト）</p>																																									

	<ul style="list-style-type: none"> ・科目群会議の企画・実施方法を検討する。 ・新カリキュラムの教育内容を総合的に検証するため、授業評価・授業アンケートの実施方法、実施計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育センター運営会議、外国語科目委員会、教養教育科目委員会において科目群会議の内容を検討した結果、29年度の教養教育外部評価に向けて実施する、教養教育全般に関わる全学アンケートの質問事項を各科目群会議において選定すること、科目群ごとに洗い出した個別的問題を基に各々テーマを設定することを決定し、8つの科目群会議を実施した。 ・教養教育センター運営会議において、29年度に実施する教養教育全般に関わる全学アンケート案について審議し決定した。29年度にそのアンケートを実施し、結果を29年度の教養教育FDにおける科目群会議で検討することとした。 <p style="text-align: right;">[参考資料2]</p>	
<p>5 グローバル人材育成の基盤として、ネイティブ教員の増員、外国語のみ使用可能な交流スペースの設置・活用などにより、全学部学生の英語力を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ教員による英語授業の継続実施について、その成果を点検・評価する方法を検討し、整備する。 ・ネイティブ教員による学生への個別指導体制を整える。 ・CASEC 評点による教育効果測定を継続し、その妥当性を検証する。 ・29年度以降の新グローバル人材育成事業の内容について検討する。 	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養教育センター運営会議で点検・評価方法を議論し、授業アンケートの分析結果、自己点検・自己評価報告書の内容、FD活動、「教養英語相談室」の活用状況、オープンキャンパスにおける教養英語ミニレッスンと、参加者及び保護者へのアンケート調査を元に、29年度からネイティブ教員による英語授業に関する点検・評価作業と報告書作成を行い、教養教育外部評価の基礎資料とすることとした。 ・4月より長久手キャンパスに「教養英語相談室」を設置し、ネイティブ教員による、授業に関する質疑応答、検定試験（TOEIC, IELTS 等）対策、学会発表サポート、海外留学アドバイスなど、学生の個別的なニーズに随時対応を行った。（利用者数（延べ）：前期 114 名、後期 108 名） ・教養英語新カリキュラム策定のための基礎資料とするため、CASEC について学生の学部・学年別得点分布や得点の推移などのデータを整理し、分析を行った。また、29年度より全学で展開される新グローバル人材育成事業（「グローバル実践教育事業」）との有機的な連携を考え、これまで活用してきた CASEC に代わるものとしてキャリアスキル形成など多方面に利用可能な TOEIC の導入を検討し、29年度より実施することとした。 ・29年度から現行の「グローバル人材育成推進事業」を全学展開することを検討し、異文化理解・多文化共生を全学部の協力の下、重点的に強化するとともに各学部の特徴に合ったグローバル人材育成を行う「グローバル実践教育事業」[参考資料3]と、自主性と探究心及び展開力を更に高めるために海外から招聘した研究者による講演を中心としたアクティブラーニング型授業により学びを深める「グローバル学術交流事業」[参考資料4]の2事業を全学生対象に実施することとした。 	

		<p>・29年度より全学で実施する「グローバル実践教育事業」の財源に充てるため、民間の助成事業に申請を行い、29年度の助成が決定した。</p> <p>【iCoToBa（多言語学習センター）利用者数】</p> <table border="1" data-bbox="1056 323 1872 600"> <thead> <tr> <th></th> <th>延べ人数※</th> <th>1日平均 (8,9,2,3月除く)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>6,762人</td> <td>42人/日</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>8,592人</td> <td>54人/日</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>10,210人</td> <td>65人/日</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>6,788人</td> <td>43人/日</td> </tr> </tbody> </table> <p>※留学生との交流会等イベント参加者含む。</p>		延べ人数※	1日平均 (8,9,2,3月除く)	25年度	6,762人	42人/日	26年度	8,592人	54人/日	27年度	10,210人	65人/日	28年度	6,788人	43人/日	
	延べ人数※	1日平均 (8,9,2,3月除く)																
25年度	6,762人	42人/日																
26年度	8,592人	54人/日																
27年度	10,210人	65人/日																
28年度	6,788人	43人/日																
<p>6 多文化共生社会等を実現するために必要な教養を涵養する。</p>	<p>・多文化共生社会に関連する教養科目（人間への洞察・共生社会のすがた・グローバルな多文化共生）の評価に向けた準備を行う。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>・教養教育センター運営会議において、29年度に実施する教養教育アンケートの枠組を審議した後、教養教育FD及び科目群会議を実施した。その中で評価に向けた準備として、多文化共生社会に関連する教養科目のジャンルごとに科目群会議を開催し、アンケートに対する意見や提言をまとめた。</p> <p>[参考資料2]</p>																
<p>7 学生のキャリア形成支援を強化するための科目を充実する。</p>	<p>・キャリア教育科目（キャリア・スキル、キャリア形成支援）の評価に向けた準備を行う。</p> <p>・単位認定を伴うインターンシップを継続して実施する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>・教養教育センター運営会議において、29年度に実施する教養教育アンケートの枠組を審議した後、教養教育FD及び科目群会議を実施した。その中で評価に向けた準備として、キャリア教育科目に関わる科目群会議を開催し、アンケートに対する意見や提言をまとめた。</p> <p>[参考資料2]</p> <p>・単位認定を伴うインターンシップを実施し、62名が参加した。また、28年度インターンシップ経験者7名による体験報告会を実施し、次年度以降のインターンシップ参加予定学生も出席した。</p> <table border="1" data-bbox="1056 1457 1952 1635"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>単位認定の対象となるインターンシップへの参加者数</td> <td>22名</td> <td>70名</td> <td>67名</td> <td>62名</td> </tr> <tr> <td>単位修得者数</td> <td>6名</td> <td>70名</td> <td>64名</td> <td>56名</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	単位認定の対象となるインターンシップへの参加者数	22名	70名	67名	62名	単位修得者数	6名	70名	64名	56名	
	25年度	26年度	27年度	28年度														
単位認定の対象となるインターンシップへの参加者数	22名	70名	67名	62名														
単位修得者数	6名	70名	64名	56名														
<p>・各学部・学科の人材養成の方針とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に沿って、カリキュラムを含む教育体制の個性化や教育内容の最新化・体系化を図る。</p>		<p>・中央教育審議会の「3ポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」に基づき、将来ビジョン検討委員会を中心として、全学部においてカリキュラム・ポリシーの見直し・修正を行うとともに、ホームページで公開した。</p>																

<p>8 【外国語学部】</p> <p>学生のニーズに応じるために、専攻言語における実践的で高度な運用能力を身につけさせるコース、多様で急激に変化する国際社会に対応できる高度な専門知識を修得させるコースを設ける。また、主体的に行動し判断できる、国際社会や地域社会に貢献するグローバル人材を育成するために、留学制度を積極的に活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コース制及び新カリキュラムを継続して実施するとともに、FDの実施などにより、カリキュラムを検証する。 ・グローバル人材育成推進事業を推進し、単位認定留学を拡大する。 ・TOEIC 検定の成績を引き上げるため、引き続き英語教育FDやiCoToBaにおける検定試験講座を実施する。 	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コース制及び新カリキュラムについて、コースによる履修制限の緩和や、中国学科の翻訳・通訳コースの語学レベル到達水準の設定を行うとともに、グローバル人材育成プログラム関連の非正規科目を正規科目化するなど、必要に応じて改良しつつ継続実施した。さらに、コース制の充実に関するFDを2月に実施し、引き続きカリキュラムの検証を行った。 [参考資料5] ・最終年度となるグローバル人材育成推進事業を推進し、28年度の外国語学部「単位認定」留学生は179名(H27:148名)に増加した。 ・教育と学位の国際通用性の向上のため、初のダブル・ディグリー協定[参考資料6]を台湾静宜大学人文社会科学部台湾文学学科との間で締結した。この協定は、4年間で本学の「学士(外国研究)」と静宜大学の「台湾文学学士」の取得を目指すものであり、特に公立大学の人文系学部においては画期的なものである。 ・iCoToBa(多言語学習センター)における検定試験講座として前期11コマ、後期10コマ、サマー講座36コマを実施した。またTOEIC団体受験については、外国語学部学生を対象に毎年度12月に学内で実施しているものに加え、7月にも追加実施した。 ・TOEICスコアアップに向けて、iCoToBaにおいて27年度実施したTOEIC直前対策講座を28年度も引き続き実施(全8回)するとともに、「28年度実施TOEIC(IP)結果検証と課題提起」をテーマとして英語教育FDを実施した。 	
<p>9 (指標) 英米学科卒業生の7割がTOEIC800点の目標をグローバル人材育成推進事業の最終年度において達成することを目指す。</p>		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育FDやTOEIC対策講座を継続的に実施するなど、英語教育の強化により、28年度英米学科卒業生101名のうち47.5%となる48名がTOEIC800点以上を獲得し、その割合は27年度より5.5%上昇した。さらに、750点以上の高得点獲得者の割合についても上昇した。 (H27:55.4%(62名)→H28:63.4%(64名)) ・25年度英米学科入学生(28年度卒業生+留年生)の得点について、グローバル人材育成推進事業を実施した4年間の中で着実にスコアを伸ばし、800点以上獲得者数が増加(H27:23名(21.1%)→H28:42名(38.5%))するとともに、750点以上の高得点獲得者の人数・割合ともに増加(H27:37名(33.9%)→H28:58名(53.2%))し、高い水準での得点分布となった。 	

【英米学科卒業生 TOEIC スコア状況】

スコア	25年度	26年度	27年度	28年度
800点以上	44人 (40.0%)	38人 (43.7%)	47人 (42.0%)	48人 (47.5%)
750～799点	9人 (8.2%)	8人 (9.2%)	15人 (13.4%)	16人 (15.8%)
小計 (750点以上)	53人 (48.2%)	46人 (52.9%)	62人 (55.4%)	64人 (63.4%)
700～749点	11人 (10.0%)	15人 (17.2%)	22人 (19.6%)	7人 (6.9%)
小計 (700点以上)	64人 (58.2%)	61人 (70.1%)	84人 (75.0%)	71人 (70.3%)
699点以下	46人 (41.8%)	26人 (29.9%)	28人 (25.0%)	30人 (29.7%)
計	110人	87人	112人	101人

*学内受験と学外受験を含めた数値。

*9月卒業含む。

【25年度英米学科入学生の TOEIC スコア推移】

スコア	25年 11月	26年 12月	27年 12月	28年 12月	28年度 (学外受験含む)
800点以上	8人 (7.3%)	17人 (15.6%)	23人 (21.1%)	42人 (38.5%)	48人 (44.0%)
750～799点	4人 (3.7%)	13人 (11.9%)	14人 (12.8%)	16人 (14.7%)	19人 (28.4%)
小計 (750点以上)	12人 (11.0%)	30人 (27.5%)	37人 (33.9%)	58人 (53.2%)	67人 (61.5%)
700～749点	10人 (9.2%)	17人 (15.6%)	19人 (17.4%)	12人 (11.0%)	12人 (11.0%)
小計 (700点以上)	22人 (20.2%)	47人 (43.1%)	56人 (51.4%)	70人 (64.2%)	79人 (72.5%)
699点以下	87人 (79.8%)	62人 (56.9%)	53人 (48.6%)	39人 (35.8%)	30人 (27.5%)
計	109人	109人	109人	109人	109人

*学内受験のみ。ただし、最右列については学外受験を含む。

*25年度入学者のうち、28年度末までに退学したものは除く。

※699点以下には、スコア未確認者も含む。小数点第2位以下は四捨五入。

[参考資料7]

<p>10 〔日本文化学部〕</p> <p>磨かれた言葉の論理と歴史認識を力として、世界的視野から地域貢献できる知的創造力を持った人材の育成を目標に、国語国文・歴史文化両学科にまたがる地域文化・日本文化を軸とした自文化理解・異文化理解の教育・研究体制を構築する。そのために、専門教育・教養教育領域へ副専攻制（所属学科以外の専門科目を履修できる制度）や地域学プログラム（仮称）の導入を前向きに検討し、第二期中期計画中の実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の世界の視野を養うため、海外大学との国際交流事業を推進する。 ・世界的視野から地域貢献できる知的創造力を持った人材を育成するため、日本文化横断プログラム「日本文化学特別研究」を軸とした人文社会系の事業を推進する。 ・留学生と日本人学生の協働による「留学生的アイチガイドづくり」事業を実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペインのCEUサンパブロ大学との学術交流事業として、招聘教員2名と本学教員4名を講演者とする「日本スペイン比較人文社会科学シンポジウム」を実施した。シンポジウムを学部教育に結び付けるべく、国文学研究や歴史文化学演習などの学部専門科目5科目7コマをシンポジウムに関連づけ、準備学習の機会とするとともにシンポジウムの成果を『国際文化研究科論集(日本文化専攻編)』で発信した。また、「天の川プロジェクト」[参考資料8]を引き続き実施するとともに、学生・教職員11名がポルトガルのミーニョ大学を訪問し、学術交流研究会「日本イベリア関係史-16世紀から今日まで-」で研究報告を行った。その他、ブラジルのサンパウロ大学の客員教授として本学教員1名を2か月間派遣し、交流を深めるなど、積極的に国際交流を推進した。 ・学部事業の軸として、「私の歴史」-自伝・ゆくすえ・主体性-を共通テーマとした公開講座8回・公開学術講演会2回を含む、両学科教員によるオムニバス形式の「日本文化学特別研究」を実施した。さらに、教職員・学部生・院生・留学生・卒業生が学科を横断して集う「県大 日本文化学部の日」を初めて開催し、学生・教員・職員・海外日本研究者それぞれの視点による学部事業の取組成果・事業に対する意見発表等を行い、教育の実績と課題について議論した。 ・グローバルと地域の両視点からの日本文化の理解を促進するため、地域文化体験に基づき、留学生と日本人学生双方の視点でガイドブックを作成する「留学生的愛知ガイドづくり」(※)事業を、常滑・半田、小原(豊田市)において実施した。 (※事業を進める中で、事業名称が「留学生的“アイチ”ガイドづくり」から「留学生的“愛知”ガイドづくり」に変更となった。) [参考資料9] 	
<p>11 〔教育福祉学部〕</p> <p>カリキュラムにおける教育発達学科及び社会福祉学科相互の乗り入れを増やすなど、教育と社会福祉の両分野の連携を強化するなかで、人間の生涯にわたる発達を支援し、誰もが尊厳ある生活を送ることができる社会の創造に貢献する専門職を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学部共通科目に関して、履修指導の改善及び開講時期の調整を行うなど、授業改善・カリキュラム改善を図る。 ・教育発達学科における小学校教員養成カリキュラムの改善を検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25年度に6科目から20科目へと約3倍に増設した学部共通科目について、学生の意見も聴取しながらその成果を検証し、学部共通科目と免許資格必修科目の重複が最小限となるよう時間割を工夫するとともに、学部共通科目の意義について理解を形成するよう履修指導の改善を行った。 ・小学校教員希望者を増やすため、近年ニーズが高まっている小中一貫教育への対応策として、中学校教員免許状も併せて取得できるよう関係科目の夜間(6限)開講に向けて検討を行い、29年度から実施する体制を整備した。 	

<p>12 【看護学部】</p> <p>「学生の看護実践能力を高めるために、臨床判断に基づく看護技術教育を強化する。」ことを目指し、保健師養成への選択制の導入をはじめとする、学生の希望に即した専門領域をより深く学べるカリキュラムを設定し、新設の導入教育や選択科目の教授内容の充実を図ることにより、他大学との個別化を実現させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 看護実践力教育の充実のため、引き続き「看護の統合と実践」関連科目を開講する。 学部における保健師養成コースの評価を行い、大学院での養成について検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「看護の統合と実践」関連科目を計画通り実施し、学生による自己評価を行った結果、いずれの技術項目（単独課題）も5段階評価の「4」「5」を合わせた割合が95～100%であった。また、最高難度の多重課題（※）の演習項目についても、平均が全ての項目において4.4以上であった。（※複数の患者対応の中で、優先順位を考えて行動することができることを目的とした演習テーマ） 27年度に実施した保健師養成選択コースの評価結果を基に、今後のあり方検討を行い、30年度入学生をもって学部における本コースを廃止し、より専門性の高い実践者の育成をめざして33年度から保健師養成は大学院で行う方針を決定した。 																					
<p>13 （指標）看護師国家試験の合格率について、毎年度大学新卒者の全国水準を上回ることを目指す。</p>		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護師国家試験合格率 28年度本学新卒者 98.9%（28年度全国大学新卒者 96.5%） <table border="1" data-bbox="1056 867 1947 1052"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合格者数/卒業者数</td> <td>90/92名</td> <td>89/89名</td> <td>88/90名</td> <td>89/90名</td> </tr> <tr> <td>本学新卒者合格率</td> <td>97.8%</td> <td>100%</td> <td>97.8%</td> <td>98.9%</td> </tr> <tr> <td>全国大学新卒者合格率</td> <td>96.9%</td> <td>96.9%</td> <td>97.4%</td> <td>96.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">[データ集4]</p>		25年度	26年度	27年度	28年度	合格者数/卒業者数	90/92名	89/89名	88/90名	89/90名	本学新卒者合格率	97.8%	100%	97.8%	98.9%	全国大学新卒者合格率	96.9%	96.9%	97.4%	96.5%	
	25年度	26年度	27年度	28年度																			
合格者数/卒業者数	90/92名	89/89名	88/90名	89/90名																			
本学新卒者合格率	97.8%	100%	97.8%	98.9%																			
全国大学新卒者合格率	96.9%	96.9%	97.4%	96.5%																			
<p>14 【情報科学部】</p> <p>新たな情報の科学と技術に対応できる能力を有し、今後の情報化社会をリードできる情報技術者を養成するために、コンピュータ技術、メディア・制御技術、シミュレーション技術を主専攻とするコース分けと、コースごとのカリキュラムを検討する。また、高度なITSとロボティクス研究を融合した研究拠点の構築及び愛知県における企業のイノベーション（改革）に向けて産業界に貢献できる工学的人材養成について、前向きに検討し、第二期中期計画の実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次世代ロボット研究所を開設し、ロボット関係の教育・研究環境を整備する。 	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 次世代ロボット研究所の開設（4月）により、これまで実施することができなかった実証実験スペースや国内有数の設備・システムを実際に活用した企業等との共同研究6件の実施に至った。これにより企業等との研究に学生が参画し教育的指導を受けることも可能となり、教育の充実に繋がった。さらに、ロボット分野で活躍中の著名な研究者・開発者を講師とした研究所セミナーの開催や名古屋市交通局と連携した学生自主企画研究など、研究所の教育的利用も促進した。 ロボット研究拠点として県内企業に対して技術普及・利用促進を図るため、愛知県の「あいちロボット産業クラスター推進協議会」（※）と連携し、企業、官公庁、大学等によるワーキンググループ会議を次世代ロボット研究所において開催するとともに、ロボカップ関連イベントへの出展や愛知県・企業・団体等の視察対応など、研究所の更なる活用に向けた情報発信に精力的に取り組んだ。 （※産学行政の連携によりロボットの研究開発や生産の拠点を形成し、新技術・新製品を創出することで、世界に誇れるロボット産業拠点としての発展を目的とした協議会） 愛知県によるIoT活用促進事業「愛知県IoT推進ラボ」（※1）が「地方版IoT推進ラボ」に選定されたことを受け、次世代ロボット研究所への 																					

	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムにおいて新たな内容で開講する実験関連科目の学習効果を高めるための方策を検討し、実施する。 ・工学的人材養成に向けて、キャリアプランを含めた新しいカリキュラムについて検討する。 	<p>「愛知県 IoT 実証支援ラボ」(※2) の設置に向けた準備を行った。</p> <p>(※1 自動車安全技術やロボット産業、健康長寿産業における、IoT や人工知能 (AI) の活用促進を目的とした事業)</p> <p>(※2 中小企業を対象とした IoT 相談窓口。相談・マッチング支援、実証実験の支援を行うとともに、IoT ニーズ・シーズマッチングセミナーやワークショップを開催することでプロジェクトの創出支援を行う)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26年度からの新カリキュラムに合わせて新たな内容で開講した実験関連科目(情報科学応用実験:3年次前期開講)の学習効果を高めるため、ロボットを研究テーマとする学生をTAとして採用するとともに、次世代ロボット研究所の環境・機材を用いて実験を実施した。また、研究所開設による学生のロボット学習のニーズの高まりを受け、当初想定していなかった学部1,2年次の授業においても研究所のロボットと環境を利用した実験を行うなど、教育における研究所利用の幅を拡充した。 ・学部の主任会及び将来計画委員会において、学科・コースの基本構成を見直し、その再編案をまとめた。 	
<p>15 ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動(教員による授業内容・方法の改善・向上のための組織的な取り組み)は、全学単位では教育支援センター(教育の運営と調整)が、各学部については学部単位で、毎年実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学、学部のFD研修会、授業アンケート等に基づき、各教員が授業内容・方法の改善・向上の計画を立て、アンケート等を通してその効果を分析・評価する。 ・学生のニーズ聞き取り調査について、学生・教職員の参加を促す企画・実施方法を検討したうえで実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学・各学部においてFD活動を実施した。各教員がFD研修会や授業アンケート結果を基に立てた、授業内容・方法に関する改善・向上計画の実施状況を把握するため、全専任教員を対象とした授業改善についてのアンケート(全10項目)を実施した。集計結果から、改善の必要があると回答した教員が積極的に改善を実施し(H27:87.8%→H28:86.6%)、授業内容・方法が改善・向上している(H27:57.8%→H28:65.6%)ことを確認した。 ・FD委員会において学生のニーズ聞き取り調査の実施方法等を検討した結果、全学FD研修会と合わせて、「障害学生の修学支援」をテーマとし、必要な措置・要望について学生を対象にアンケート調査した。また、障害のある本学卒業生の体験談や、聴衆学生との意見交換を中心とするシンポジウムを開催した。(学生69名、教職員7名参加(H27:学生170名、教職員21名)) 	
<p>16 FD活動を有効なものにするために、自己点検・評価、学生評価、外部評価等のあり方に関する検証を踏まえて実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初における目標設定に関する指針にもとづいて、自己点検・自己評価を通じた教員のリフレクションを促す。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価委員会において、リフレクション(教員自身の振り返り)の定義について委員間の共通認識を再確認した上で、目標設定・報告書作成の依頼に際して、前年度の結果との関連性を考慮するよう、改めて評価委員長及び各学部評価委員から全教員に周知した。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの対象科目の選定方法、アンケート項目について検討し、アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象科目については、26年度に決定した選定方法に従って各学部で選定し、継続性を重視して27年度と同項目で授業アンケートを実施した。大学院においては、研究指導についてのアンケートを初めて全学的に実施した。また、29年度に実施するアンケート項目については、29年度のシラバス改訂を受け、その検討を開始した。 	
17 予習・復習等の自主学習がより一層容易になる様にシラバスを工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、シラバスの評価・改善につなげるため、授業時間外の学習とシラバス記載内容の関係を分析・評価する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の自主学習を容易にするため、29年度シラバスの「授業計画」に、より具体的な内容を記載するよう全教員に指示するとともに、「授業目的」を「到達目標」に変更し、学生にとってより明確なシラバスとなるよう改善を図った。また、授業アンケート結果を踏まえ、学生の授業時間外の学習時間が多い講義科目を対象に「学生の主体的な学びにつながる授業実施方法等の調査」を実施することをFD委員会で決定した。 	
18 学生自主企画などを通じて学生に主体的・自主的な学習機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学生自主企画研究の実施方法・体制について引き続き検討する。 ・奨学制度「はばたけ県大生」を見直したうえで引き続き実施し、学生の主体的な学習を促す。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生自主企画研究への応募を促進するため、新入生へのチラシ配付・説明及び3回の説明会の開催等を行った結果、22件の応募があり（H27：13件）、12件（名古屋市交通局連携テーマ3件を含む）を採択し、10月に中間発表会、1月に研究発表会を行った。また、学部1年生がより参加しやすくなるよう選考方法を一部見直し、29年度から実施することとした。 ・夏季休暇期間を利用した学習・研究計画にも対応できるよう、申請時期・給付日を見直した上で募集を行い、14名の受給者を選考した。また、各学科において受給者による報告会を行った。 	
19 学習時間の増加と学習の質の高度化を促す方策について検討し、それを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間に関する基礎データの分析に基づき、学習時間の増加と学習の質向上について引き続き検討し、教員間での情報共有を図る。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの基礎データを分析したところ、講義科目における学生の自主学習時間が低い傾向であったため、講義科目のうち授業時間外の学習時間が多い科目を対象に、「学生の主体的な学びにつながる授業実施方法等の調査」を実施することをFD委員会で決定した。また、調査結果は学内ポータルサイトに掲載し、教員への情報提供を行うとともに、29年度のFD活動への活用を検討することとした。 	
ウ 大学院教育	<ul style="list-style-type: none"> ・各研究科の人材養成の方針とカリキュラム・ポリシーに沿って、カリキュラムを含む教育・指導体制を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央教育審議会の「3ポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」に基づき、将来ビジョン検討委員会を中心として、全研究科においてカリキュラム・ポリシーの見直し・修正を行うとともに、ホームページで公開した。 	

<p>20 〔国際文化研究科〕</p> <p>国際文化専攻博士前期課程では、語学力の高度運用能力を通じて地域に貢献する高度専門職業人と、国際社会および地域社会にかかわる言語文化、社会文化の諸問題をグローバルな観点から考察する研究者、専門家を育成するための教育体制を整備する。</p> <p>日本文化専攻博士前期課程では、国際的視野に立って自文化を深く精緻に捉え、今日的な社会・文化の諸問題解決に貢献できる専門的人材を養成するための教育体制を整備する。</p> <p>博士後期課程においては、前期課程で培った精緻な専門的知識と問題解決能力を、より高次元で発揮できる専門的教育者・研究者、指導的組織者を養成するための教育体制を整備する。</p>	<p>〈国際文化専攻〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化専攻博士前期課程の英語高度専門職業人コースの充実を図るため、通訳翻訳研究所を設立する。 ・博士前期課程、後期課程とも、研究指導において集团的指導体制を維持しつつ、その研究経過および研究結果の報告会を年1回開催する。 <p>〈日本文化専攻〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外協定校等との学術交流を推進し、グローバルな視野に立って自文化と地域の文化を深く捉えることができる研究の担い手を養成する。 ・深い専門性と広い視野を育成するため、教員及び院生による研究会を引き続き開催する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>〈国際文化専攻〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程の英語高度専門職業人コースの充実を図るため、通訳翻訳研究所を28年4月に設立し、5月にキックオフセミナーを開催した。本学の学生の教育に資するため通訳翻訳研究所の同時通訳システムの充実を図るとともに、一般向けの通訳翻訳研究所ゼミナール「翻訳講座（理論と実践）」（全10回）をサテライトキャンパスにて実施し、本学学生も参加した。（参加者：11名（うち本学学生2名）） ・論文指導における正副の集団指導体制の下、10月に博士前期課程の中間研究報告会を開催するとともに、更なる指導体制強化のため、29年度より博士前期課程に近接分野の複数の教員と学生による合同ゼミ「国際文化特殊演習」を設置することとした。また、「大学院教育における共働プログラムの現状と課題」をテーマにFD研究会を開催し、取組の実例を報告した。 <p>〈日本文化専攻〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポルトガル・ミーニョ大学での学術セミナーでの本学教員8名（外国語学部教員2名を含む）と博士後期課程修了生1名による研究発表、スペイン・CEUサンパブロ大学教員2名による『大学院国際文化研究科論集（日本文化編）』への寄稿、ブラジル・アマゾナス国際連邦大学における国際学会での博士後期課程院生の発表などを行った。 ・修士・博士論文の中間報告会を公開研究会として実施したほか、院生による自主的研究会を1回実施した。また、近接分野の複数教員と院生による研究グループを国際文化専攻との連携により新たに立ち上げた。 	
<p>21 〔人間発達学研究科〕</p> <p>博士前期課程では、人間の一生を通じての発達と尊厳ある生き方を地域社会において支えることのできる教育・保育と社会福祉に関わる高度専門職業人を育成するための教育体制を整備する。</p> <p>博士後期課程では、「人間の発達と尊厳」の問題を解明する人間発達学の創造と、発達保障の高度な専門家・研究者の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人学生と一般学生とのニーズの違いを踏まえたうえ、より効果的な研究指導方法を検討する。 ・新設した研究方法に関する科目が充実した内容となるよう、担当教員間の協働を促進する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに自身の専門を持ち実務経験もある社会人学生が、更に高度な専門性の習得に専念できるよう、カリキュラムにおける「基幹科目」をこれまでの3領域から2領域に再編成することで履修の便宜を図った。また、研究経過報告会の在り方を見直し、早期に日程の確定・周知を行うことで、社会人学生がより参加しやすくなるよう改善を行うとともに、1名あたりの報告時間を拡大することで、報告会の更なる充実を図った。 ・カリキュラムにおける「関連科目」を人間発達学の研究方法論に関する科目として見直し、研究科教員のオムニバス形式の講義に再編して実施し、担当教員間の協働を促進した。 	

<p>育成をめざすための教育体制を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達研究所において教員・院生が協働で取り組んでいる事業をさらに拡充する。 ・スクールソーシャルワーク教職員研修事業について、外部資金終了後も事業の継続に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーク教職員研修のアフターフォロー事業である実践検討会及び学部卒業生・大学院修了生の参加による事例検討会を開催した。また、博士課程の授業「臨床発達心理実習」を一般公開の「療育セミナー」として実施するとともに、院生の協力の下「災害と教育・福祉」をテーマとする他大学・団体からの講師による連続講座（3回）を初めて開催するなど、教員・院生の協働による事業を実施した。 ・27年度で外部資金が終了となったスクールソーシャルワーク教職員研修事業について、28年度は愛知県教育委員会等の後援の下、研究科長を研究代表者とする科研費の研究活動の一環として継承し、共同研究による研究科教員の協働体制を継続した。 	
<p>22 〔看護学研究科〕</p> <p>博士前期課程では、看護学の専門的知識の探求および高度な実践力の学修により看護実践の質向上に寄与する人材を養成するため教育体制の充実を図る。</p> <p>博士後期課程では、看護学基礎研究・応用研究を自律的に遂行し研究成果をとおして広く社会に貢献できる人材を養成するための教育体制の充実を図る。</p> <p>また、専門看護師の実践力向上のため、実習教育スペースの拡充などを検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院における保健師養成コースについて検討する。 ・博士前期課程、後期課程とも、研究計画発表会や研究計画審査、副指導教員制などの複数指導体制を継続する。 ・博士後期課程では、コースワーク、演習、副論文等の見直しを行い、院生個々のニーズに対応した論文作成支援につなげられる体制を整備する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師養成コースの大学院への移行を先行して実施している大学院 2校を視察した上で、高度な実践力を備えた保健師養成の必要性等から、33年度から大学院に保健師高度実践養成課程を開設することを教授会及び研究科会議で合意した。 ・博士前期課程において、研究計画発表会及び審査会の回数を年2回から3回に増やし、院生の研究の進捗状況に応じた審査に努めるとともに職業等を有する長期履修者への便宜を図った。また、複数指導体制については、5月には新入大学院生の仮研究テーマに沿って副指導教員を決定し、早期から複数指導体制による多角的な視点からの研究指導を行った。 ・博士後期課程においては社会人学生が多いことから、コースワークの履修の利便性を考慮し、その共通科目について、28年度よりサテライトキャンパスで行う授業を増設した。また、演習については、院生個々のニーズに対応したより効果的な論文作成支援となるよう、従来は2科目履修を必須としていたところを、研究テーマに近い専門領域1科目の履修でも可とすることとした。 	
<p>23 〔情報科学研究科〕</p> <p>博士前期課程では、情報科学に関する先端的な専門知識および技術を習得し、先端的な情報システムを構築できる高度情報システム技術</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学部の新カリキュラムに合わせた博士前期課程カリキュラムの具体的構成を検討する。 ・組織的な研究指導体制の強化・整備 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部の学科・コースの見直しにより、学部カリキュラムが大幅に変更される可能性があるため、博士前期課程カリキュラムについては専攻間の履修の柔軟な対応も含め、引き続き検討することとした。 ・27年度より始めた新方式の中間発表会（※1）を継続実施するとともに、 	

<p>者を養成するための教育体制を整備する。</p> <p>博士後期課程では、新たな情報技術の創造や実践的研究を行うことができる先端的高度情報システム技術者および研究者を養成するための教育体制を整備する。</p>	<p>に向けて、前年度より開始した新方式の中間発表会を継続実施し、効果の検証方法について検討する。</p> <p>・組織的なグローバル教育指導體制の強化・整備に向けて、国際感覚・視野を広め、外国語能力を高める方法を全学的な組織・体制の構築・連携と併せて検討する。</p>	<p>研究指導の効果・成果を専門的見地から検証するため、11月に本学にて開催した情報学ワークショップ (WiNF2016) を活用し、他大学教員による外部評価を加えて評価する手法を試行した。</p> <p>(※1 プレゼンテーション・ペーパーセッション (※2) ・レビューセッション (※3) の3段階方式で評価を行う発表会)</p> <p>(※2 中間発表報告書を作成し、提出すること。なお、年度内に学外発表をする学生は、学外発表原稿のコピーを中間発表報告書とすることができる。)</p> <p>(※3: 中間発表報告書等を研究科教員間で閲覧し、コメント等の書き込みを行った上で、指導教員を通して当該学生へ返却すること。)</p> <p>・主任会において、養成すべき工学的人材と合わせて、国際感覚・視野を広め、外国語能力を高める方法を検討した。iCoToBa が主催する英語による口頭発表セミナーの活用を促すなどの指導を行った結果、28年度の学生による国際会議発表は35件となった。(H27: 26件)</p> <p>・複数教員による多面的指導を継続した結果、本学の情報科学部、情報科学研究科博士前期課程を経て、博士課程を1年半で早期修了した、内部進学による博士学位取得者が誕生した(日本学術振興会特別研究員 DC1 採択)。</p>	
<p>エ 卒業・修了認定</p> <p>24 ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)について、時代や社会の変化に対応するよう、適切に見直す。</p>	<p>・各学部・研究科が、引き続きディプロマ・ポリシーを見直し、必要に応じて修正するとともにホームページで広報する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>・中央教育審議会の「3ポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」に基づき、将来ビジョン検討委員会を中心として、全学部・研究科においてディプロマ・ポリシーの見直し・修正を行うとともに、教養教育においてはディプロマ・ポリシーに代わるものとして「教養教育の目標」を設定し、ホームページで公開した。</p>	
<p>オ 学生への支援</p> <p>25 授業等に必要な教育機器等を更新・整備するなど、学生の学習環境の整備を推進する。</p>	<p>・調査結果に基づいて、授業等で必要な機器を更新し、学習環境を整えるとともに、今後の学習環境の整備について検討する。</p> <p>・学生の多様な学習スタイルや利用ニーズに対応可能な学習環境を提供する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>・27年度に実施した「教室 AV 機器利用状況アンケート」の結果に基づき3教室の AV システム更新、CALL 教室 (※) 2室の CALL システム更新、小教室3室に65型ディスプレイ導入を行うなど、学習環境の整備を行った。また、法人の財政状況を考慮して、利用状況や必要性等を勘案し、各教室における CALL システム・AV 機器等の更新計画を決定した。</p> <p>(※Computer Assisted Language Learning 教室: パソコンやネットワークを活用し、音声、映像、テキスト等による外国語学習を行う教室)</p> <p>・図書館において、グループ研究室への電子黒板の導入、閉架書庫内個人閲覧用座席の増設など、学生のニーズに応じた整備を進めることで、多様な学習環境提供の充実を図った。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> 学生の主体的な学びを促す学修支援の強化のために、資料と情報リテラシー教育を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修での成果を学内にフィードバックすることにより、図書館職員の資料収集・情報提供能力を高めることで、より質の高い講座・講習等を実施した。また、図書館と学部との共同企画展示等により貴重な資料や図書とふれあう機会を提供することで、情報リテラシー教育の充実を図った。 <table border="1" data-bbox="1056 422 1947 1129"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館オリエンテーション</td> <td>36回(長久手) 3回(守山)</td> <td>40回(長久手) 3回(守山)</td> <td>25回(長久手) ※1 3回(守山)</td> <td>21回(長久手) ※2 3回(守山)</td> </tr> <tr> <td>情報探索講座(初級・上級)</td> <td>54回(長久手) 3回(守山)</td> <td>46回(長久手) 2回(守山)</td> <td>45回(長久手) 6回(守山)</td> <td>55回(長久手) 7回(守山)</td> </tr> <tr> <td>各種館内展示</td> <td>10回(長久手) 2回(守山)</td> <td>9回(長久手) 3回(守山)</td> <td>11回(長久手) 4回(守山)</td> <td>12回(長久手) ※3 4回(守山)</td> </tr> <tr> <td>「今月の五冊」 「図書館だより」発行</td> <td>12回・1回</td> <td>12回・2回</td> <td>12回・0回</td> <td>12回・0回</td> </tr> <tr> <td>図書館 来館者数 (学内関係者)</td> <td>186,540名 (長久手) 32,642名 (守山)</td> <td>184,426名 (長久手) 31,477名 (守山)</td> <td>177,129名 (長久手) 32,204名 (守山)</td> <td>184,015名 (長久手) 29,044名 (守山)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：27年度図書館オリエンテーション（長久手）の回数の減少は、システム入れ替え対応により、年度当初に開催不可能な期間があったため。</p> <p>※2：28年度図書館オリエンテーション（長久手）の回数の減少は、同じ学科内で一部合同授業を開催したため。</p> <p>※3：各種館内展示は12回のうち6回が図書館学生ボランティアの展示、3回が学部との共同展示。</p>	内容	25年度	26年度	27年度	28年度	図書館オリエンテーション	36回(長久手) 3回(守山)	40回(長久手) 3回(守山)	25回(長久手) ※1 3回(守山)	21回(長久手) ※2 3回(守山)	情報探索講座(初級・上級)	54回(長久手) 3回(守山)	46回(長久手) 2回(守山)	45回(長久手) 6回(守山)	55回(長久手) 7回(守山)	各種館内展示	10回(長久手) 2回(守山)	9回(長久手) 3回(守山)	11回(長久手) 4回(守山)	12回(長久手) ※3 4回(守山)	「今月の五冊」 「図書館だより」発行	12回・1回	12回・2回	12回・0回	12回・0回	図書館 来館者数 (学内関係者)	186,540名 (長久手) 32,642名 (守山)	184,426名 (長久手) 31,477名 (守山)	177,129名 (長久手) 32,204名 (守山)	184,015名 (長久手) 29,044名 (守山)	
内容	25年度	26年度	27年度	28年度																													
図書館オリエンテーション	36回(長久手) 3回(守山)	40回(長久手) 3回(守山)	25回(長久手) ※1 3回(守山)	21回(長久手) ※2 3回(守山)																													
情報探索講座(初級・上級)	54回(長久手) 3回(守山)	46回(長久手) 2回(守山)	45回(長久手) 6回(守山)	55回(長久手) 7回(守山)																													
各種館内展示	10回(長久手) 2回(守山)	9回(長久手) 3回(守山)	11回(長久手) 4回(守山)	12回(長久手) ※3 4回(守山)																													
「今月の五冊」 「図書館だより」発行	12回・1回	12回・2回	12回・0回	12回・0回																													
図書館 来館者数 (学内関係者)	186,540名 (長久手) 32,642名 (守山)	184,426名 (長久手) 31,477名 (守山)	177,129名 (長久手) 32,204名 (守山)	184,015名 (長久手) 29,044名 (守山)																													
<p>26 学生自主企画やボランティア活動の支援を通じて、学生の地域貢献活動を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生自主企画研究において、地域との連携を図った研究を募集し、支援する。 学生の地域貢献活動を促進するため、学内ボランティアサークルのネットワークづくりをする。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生自主企画研究において、28年度新たに設定した名古屋市交通局と連携したテーマの研究を募集し、3グループを採択した（全体の応募：22件、採択：12件）。これにより、学生が研究・調査で連携を図るだけでなく、名古屋市交通局のイベントに参加するなど地域貢献活動を行った。また、29年度より新たに常滑市役所と連携した研究・調査を支援するため、調整を開始した。 ボランティアサークルのネットワークづくりのため、地域貢献活動を行っている主要5サークルの代表者を集め、聞き取り調査を行うことで、活動状況や長久手市に対する要望などを把握するとともに情報共有を行った。 																															

		<ul style="list-style-type: none"> ・海外展開を目指す地元企業と連携し、多言語による記事作成等を通して実践的な語学力と課題解決力を持った人材育成を目指す「地域ものづくり学生共同プロジェクト」[参考資料10]を外国語学部「グローバル人材プログラム」の一環で実施した(前後期・各15週・学生51名が参加)。28年度は、東海地域の企業9社と連携し、8言語の記事作成や商品企画を行った。学生が作成した記事は、国際展示会等で活用されている。 ・日本文化学部事業として、本学の留学生と日本人学生が愛知を訪れる外国人のために愛知県内の名所を訪ね、独自の感想を多言語(日本語、中国語、台湾語、韓国朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語)パンフレットで紹介する取組として、「留学生的愛知ガイドづくり」[参考資料9]事業を実施し、留学生を通じた愛知県の魅力発信を行った。(H28訪問先:常滑・半田、小原(豊田市)) 	
<p>27 グローバル人材育成推進事業を通じて、学術交流協定に基づいた留学生の派遣・受け入れを促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語圏大学との双方向の学術交流活動を拡充する。 ・キャリア支援室との連携による留学経験者・予定者へのキャリア支援を行う。 ・留学生支援(派遣・受入)の充実を図る。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・27年度に引き続きAPAIE・NAFSAなどの国際教育交流会議や研修等に参加し、協定大学との情報交換・交流強化を行うとともに、新たな交流大学候補との協議を行った結果、オーストラリアの大学としては初めての双方向の学生相互交流協定をウーロンゴン大学と締結した。さらに、アメリカニューヨーク州立大学フレドニア校と、既存の学術交流活動を発展させた、学生相互交流協定を締結した。また、27年度末に加盟したUMAP(アジア太平洋大学交流機構)の学生交換留学プログラムによる、英語圏を含む加盟大学間での学生の留学を開始した。(派遣2名、受入1名) [データ集10] ・国際交流室とキャリア支援室との共同による「留学×キャリア」支援を企画・実施し、「キャリアから見る留学」セミナーを開催するなど、留学生に対するキャリア支援を推進した(参加者数:25名)。 ・グローバル人材育成推進事業において、留学経験者のキャリア支援の一環として、取材型インターンシップを取り入れた「地域ものづくり学生共同プロジェクト」[参考資料10]を実施した(学生51名参加)。また、本プログラム受講者を対象に就職活動の準備として就職支援講座を実施し、エントリーシート作成やグループディスカッション指導等を行った。(3回、延べ25名参加) ・看護や教職の分野における専門的なキャリアを見据えた初めてのプログラムを含む協定を締結したオーストラリアン・カソリック大学を始めとして、新たに6大学と学術交流協定を締結し、協定数は合計で18か国・地域、56大学・機関(民間留学機関1機関含む)となった。 	

		<p>・受入留学生を対象とした帰国前アンケート調査の結果を参考にしつつ留学生科目や受入体制の見直しを検討し、前期から受入開始となる留学生の増加に対応するため、これまで教養教育センターにおいて後期のみで開講していた初級学習者を対象とした日本語科目「総合日本語Ⅰ」を、29年度より新たに前期にも開講することとした。</p> <p>(協定大学間の留学状況)</p> <table border="1" data-bbox="1053 468 1902 661"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣学生 (ショート込)</td> <td>87名</td> <td>205名</td> <td>158名</td> <td>192名</td> </tr> <tr> <td>受入学生</td> <td>16名</td> <td>29名</td> <td>40名</td> <td>45名</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">[データ集10・11]</p>	内容	25年度	26年度	27年度	28年度	派遣学生 (ショート込)	87名	205名	158名	192名	受入学生	16名	29名	40名	45名																																									
内容	25年度	26年度	27年度	28年度																																																						
派遣学生 (ショート込)	87名	205名	158名	192名																																																						
受入学生	16名	29名	40名	45名																																																						
<p>28 社会や学生（留学生を含む）のニーズに応じた講座を開講するなど、キャリア形成支援体制を強化する。</p>	<p>・就職・採用活動開始時期の変更を踏まえ、適切に就職支援を実施する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>・学生の志望度が高い企業等を中心に74社への企業訪問を行うとともに、愛知県県民生活部男女共同参画推進課の主催による「女性の活躍キャリア形成セミナー」や、公務員志望者向けガイダンス、業界研究についてのガイダンス等の就職ガイダンス・セミナーを開催するなどの就職支援を行った。特に業界研究についてのガイダンスについては、トヨタ自動車等の優良企業3社から初めて講師を招き開催した。</p> <table border="1" data-bbox="1053 1110 1923 1808"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キャリア支援室面談件数</td> <td>2,182件</td> <td>1,866件</td> <td>2,014件</td> <td>1,981件</td> </tr> <tr> <td>うちサテライトキャンパス</td> <td>817件</td> <td>635件</td> <td>845件</td> <td>812件</td> </tr> <tr> <td>公務員相談コーナー面談件数</td> <td>—</td> <td>56件</td> <td>86件</td> <td>86件</td> </tr> <tr> <td>就職ガイダンス・セミナー 実施件数(*)</td> <td>32回</td> <td>48回</td> <td>40回</td> <td>61回</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>3,097名</td> <td>3,301名</td> <td>3,520名</td> <td>4,891名</td> </tr> <tr> <td>合同企業説明会参加企業数</td> <td>97社</td> <td>95社</td> <td>122社</td> <td>132社</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>537名</td> <td>676名</td> <td>921名</td> <td>985名</td> </tr> <tr> <td>インターンシップガイダンス</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>377名</td> <td>595名</td> <td>491名</td> <td>614名</td> </tr> <tr> <td>学部就職内定率 (内定者数/就職希望者数) (全国平均(文科省・厚労省共同調査))</td> <td>96.6% (94.4%)</td> <td>97.6% (96.7%)</td> <td>98.9% (97.3%)</td> <td>98.9% (97.6%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(*)「OB・OGによる業界研究会」を含む。(合計9回223名)</p>		25年度	26年度	27年度	28年度	キャリア支援室面談件数	2,182件	1,866件	2,014件	1,981件	うちサテライトキャンパス	817件	635件	845件	812件	公務員相談コーナー面談件数	—	56件	86件	86件	就職ガイダンス・セミナー 実施件数(*)	32回	48回	40回	61回	参加人数	3,097名	3,301名	3,520名	4,891名	合同企業説明会参加企業数	97社	95社	122社	132社	参加人数	537名	676名	921名	985名	インターンシップガイダンス	4回	3回	3回	3回	参加人数	377名	595名	491名	614名	学部就職内定率 (内定者数/就職希望者数) (全国平均(文科省・厚労省共同調査))	96.6% (94.4%)	97.6% (96.7%)	98.9% (97.3%)	98.9% (97.6%)	
	25年度	26年度	27年度	28年度																																																						
キャリア支援室面談件数	2,182件	1,866件	2,014件	1,981件																																																						
うちサテライトキャンパス	817件	635件	845件	812件																																																						
公務員相談コーナー面談件数	—	56件	86件	86件																																																						
就職ガイダンス・セミナー 実施件数(*)	32回	48回	40回	61回																																																						
参加人数	3,097名	3,301名	3,520名	4,891名																																																						
合同企業説明会参加企業数	97社	95社	122社	132社																																																						
参加人数	537名	676名	921名	985名																																																						
インターンシップガイダンス	4回	3回	3回	3回																																																						
参加人数	377名	595名	491名	614名																																																						
学部就職内定率 (内定者数/就職希望者数) (全国平均(文科省・厚労省共同調査))	96.6% (94.4%)	97.6% (96.7%)	98.9% (97.3%)	98.9% (97.6%)																																																						

	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップをめぐる状況の変化に柔軟に対応しつつ、支援活動を拡充する。 ・国際交流室との連携による留学生(派遣・受入)へのキャリア支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東海地域インターンシップ推進協議会との連携により、合同説明会を初めて学内で実施した。(企業等 10 団体、学生 61 名参加) また、愛知県が実施する受入留学生を対象としたインターンシップ事業への参加促進を行い、本学より留学生 2 名が参加した。 ・国際交流室とキャリア支援室との共同による「留学×キャリア」支援を企画・実施し、留学予定者を対象とした「キャリアから見る留学」セミナーを開催するとともに、学内企業説明会において受入留学生対象ブースを設けるなど、留学生に対するキャリア支援を推進した。 <p style="text-align: right;">[データ集 3]</p>																																																	
<p>29 学生の健康管理として、定期健康診断や学生相談員等による各種相談を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断、学生相談の各種相談を実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断を実施した結果、受診率は長久手キャンパス受診率 87.8%、守山キャンパス 100%であった (H27:長久手 85.5%、守山 100%)。また、精神科校医によるメンタルヘルス相談など各種学生相談を以下のとおり実施した。常勤の臨床心理士 1 名を増員した結果、保健師への学生相談が臨床心理士に移行し、役割分担の明確化や保健師業務の時間の確保へとつながった。 <p>(長久手キャンパス)</p> <table border="1" data-bbox="1056 1052 1947 1465"> <thead> <tr> <th colspan="2">学生相談等内容</th> <th>25 年度</th> <th>26 年度</th> <th>27 年度</th> <th>28 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生相談員による学生相談</td> <td>随時</td> <td>163 回</td> <td>142 回</td> <td>122 回</td> <td>114 回</td> </tr> <tr> <td>保健師による学生相談</td> <td>随時</td> <td>595 回</td> <td>621 回</td> <td>550 回</td> <td>181 回</td> </tr> <tr> <td>メンタルヘルス相談</td> <td>年 6 回 (H26:5 回)</td> <td>4 名</td> <td>2 名</td> <td>11 名</td> <td>9 名</td> </tr> <tr> <td>臨床心理士による学生相談</td> <td>火水木金 各 4 時間</td> <td>40 名 216 回</td> <td>58 名 306 回</td> <td>55 名 352 回</td> <td>86 名 356 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>(守山キャンパス)</p> <table border="1" data-bbox="1056 1570 1947 1854"> <thead> <tr> <th colspan="2">学生相談等内容</th> <th>25 年度</th> <th>26 年度</th> <th>27 年度</th> <th>28 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生相談員による学生相談</td> <td>随時</td> <td>29 回</td> <td>39 回</td> <td>53 回</td> <td>24 回</td> </tr> <tr> <td>臨床心理士による学生相談</td> <td>毎週火曜日 4 時間</td> <td>15 名 52 回</td> <td>11 名 52 回</td> <td>10 名 75 回</td> <td>11 名 62 回</td> </tr> </tbody> </table>	学生相談等内容		25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	学生相談員による学生相談	随時	163 回	142 回	122 回	114 回	保健師による学生相談	随時	595 回	621 回	550 回	181 回	メンタルヘルス相談	年 6 回 (H26:5 回)	4 名	2 名	11 名	9 名	臨床心理士による学生相談	火水木金 各 4 時間	40 名 216 回	58 名 306 回	55 名 352 回	86 名 356 回	学生相談等内容		25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	学生相談員による学生相談	随時	29 回	39 回	53 回	24 回	臨床心理士による学生相談	毎週火曜日 4 時間	15 名 52 回	11 名 52 回	10 名 75 回	11 名 62 回	
学生相談等内容		25 年度	26 年度	27 年度	28 年度																																														
学生相談員による学生相談	随時	163 回	142 回	122 回	114 回																																														
保健師による学生相談	随時	595 回	621 回	550 回	181 回																																														
メンタルヘルス相談	年 6 回 (H26:5 回)	4 名	2 名	11 名	9 名																																														
臨床心理士による学生相談	火水木金 各 4 時間	40 名 216 回	58 名 306 回	55 名 352 回	86 名 356 回																																														
学生相談等内容		25 年度	26 年度	27 年度	28 年度																																														
学生相談員による学生相談	随時	29 回	39 回	53 回	24 回																																														
臨床心理士による学生相談	毎週火曜日 4 時間	15 名 52 回	11 名 52 回	10 名 75 回	11 名 62 回																																														

	<ul style="list-style-type: none"> ・28年4月施行の障害者差別解消法に基づく体制を確立し、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者差別解消法に基づく合理的配慮を行う体制として学内に障害学生支援連絡会議を発足、28年度は4回の会議を実施し、ノートテイカーの配置など障害学生からの要望に対応した。 	
30 成績優秀者奨学制度に基づく経済的支援を継続的に実施し、就学のための経済的支援として、各種奨学金の情報提供を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・27年度に新設した奨学制度「はばたけ県大生」を見直したうえで引き続き実施する。 ・各種奨学金申請時期等の年間予定表の作成などを通じて、学生への情報提供を適切に行う。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・14名の受給者を選考し、1名につき25万円を支給した。 ・より幅広い学生の申請を促すため、29年度より、25万円を申請上限とすることで25万円以下の研究計画の申請が可能となるよう見直すことを決定した。 ・例年申請者の多い奨学金や採択実績のある奨学金を中心に、各種奨学金の年間予定表を作成し、学内ポータルサイト及び掲示板に公開することで学生への情報提供の充実を図った。 	

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
1 愛知県立大学
(2) 研究に関する目標

中期目標	優れた研究者・教員を確保するとともに、若手研究者等によるオリジナリティのある研究や、地域の発展に貢献する研究、学部・学科・大学の枠を超えた共同研究の推進などに努めることにより、各教員や大学全体の研究力を高め、その成果をもって地域社会や国際社会に貢献する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
31 公募によって優れた研究者・教員を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員を公募によって採用することを原則とする。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28年度に採用した11名全ての教員について、公募により採用を決定した。(外国語学部5名、日本文化学部1名、看護学部2名、教養教育センター1名、グローバル実践教育推進室1名、看護実践センター1名) 	
32 学長特別研究費において、若手研究者によるオリジナリティのある研究を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学長特別研究費において、若手研究者によるオリジナリティのある研究を支援する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学長特別教員研究費における若手研究者への研究助成について公募を行い、27年度からの継続分として2件・550千円、28年度新規分として5件・2,250千円の研究を支援した。(学長特別教員研究費全体に占める割合:全16件中7件(43.8%)、総額14,516千円中2,800千円(19.3%)) <p>[データ集12]</p>	
33 学長特別研究費において、地域の発展に貢献する研究を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学長特別教員研究費交付規程に基づき、地域の発展に貢献する研究を支援する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学長特別教員研究費において、27年度に「地域貢献に関する研究」を選考基準のひとつとして募集・採択を行った、「日常を豊かにするための家族向け生活支援ロボットに関する研究」、「『通訳』に関する倫理的基盤研究及び実践的応用研究」について支援を行った。 <p>[データ集12]</p>	

<p>34 学術研究情報センター(図書館として学術情報を発信するとともに教員の研究支援を担う)が、学部・学科の枠を越えた共同研究及び外部との共同研究を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学部学科の枠を超えた共同研究や外部との共同研究へつなげるために、研究者データベースを本格運用する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 27年度末にホームページで公開した「研究者データベース」の本格運用を開始し、新任教員の追加や英語バージョンの作成など、更なる充実を図った。また、共同研究の促進に向けた教員研究発表会を実施し、学内での研究シーズの共有化を支援した。 	
<p>35 (指標) 科学研究費補助金の申請率が毎年度80%(研究分担者を含む)に到達することを旨とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 競争的資金に関する申請サポート体制を充実させる。 外部資金獲得に役立つ講演会を企画、実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 28年度の科研費申請率は、85.1%(研究分担者を含む)となり、前年度に引き続いて目標の80%を上回った(H27:89.3%)。 (新規申請に対する採択率 H27:27.9%→H28:32.5%(29年6月末現在)) 引き続き外部コンサルタント会社による科研費申請者の添削・面談を行い、教員からの要望が多かった面談については、件数を10件(H27)から17件に増加させるなど、申請サポート体制の充実を図った。 職員によるサポート体制を強化するため、研究支援担当職員向けスキルアップ研修を実施した。(参加者8名(芸大職員3名を含む)) 引き続き、学術研究情報センターのホームページ上にある「研究支援情報」サイトの更新や、メールを通じた外部資金情報の発信を定期的に行い、教員が常に最新の情報を得られるように対応した。 外部コンサルタント会社より講師を招き、科学研究費助成事業についての講演会・説明会を開催した。(参加者数:教職員97名) [データ集5・6] 	

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
1 愛知県立大学
(3) 地域連携・貢献に関する目標

<p>中期目標</p>	<p>愛知県や他の自治体、産業界、名古屋市立大学などの他大学、地域社会等との多様な連携を充実させ、県民の生活と文化の向上、地域の課題解決や活力創出に貢献する。</p>
-------------	---

<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>	<p>計画の実施状況等</p>	<p>評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど</p>
<p>36 地域連携センターが、学外ニーズと学内シーズのマッチングを促進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研究シーズ集を更新し、学外ニーズと学内シーズのマッチングを促進する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究シーズ集について、当初は小規模な更新を予定していたが、更新作業を進める過程で他大学のシーズ集の内容を比較検討した結果、訴求力のある内容での新たな作成を行う必要があると判断し、29年度新たに「地域連携研究シーズ集」を作成することとした。 	

<p>37 愛知県の審議会等への参画を通じて、愛知県の政策・施策の推進を積極的に支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県の審議会等委員に参画する。 ・学生や市町村職員が地域課題解決策を提案する「あいち地域づくり連携大学」を愛知県および名古屋市立大学と協働で実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県及び県内市町村に「地域連携センターリーフレット」のリニューアル版を配布するとともに、愛知県の生涯学習講座登録者名簿に登録し、審議会委員の任命や講師依頼の促進を図った。また、27年度に引き続き、私立学校審議会委員及び学校法人等助成審議会委員等へ本学教員が委員として参画した。 ・愛知県、名古屋市立大学、本学の協働による「あいち地域づくり連携大学」を10月～11月にかけて4回実施した。知多市を舞台に、シティプロモーションについて地域住民が誇りに思う魅力発見の重要性をテーマとして、市職員と両大学学生によるグループワークを行い、知多市へ提案を行った。(参加者：市町村職員22名、名古屋市立大学12名、本学15名) ・愛知県が整備した「知の拠点あいち」における重点研究プロジェクト「プロジェクトR(次世代ロボット社会形成技術開発プロジェクト)」のロボット分野(高齢者が安心快適に生活できるロボティクススマートホーム)及び自動車安全技術分野(交通事故低減のための安心安全管理技術の開発)と、「プロジェクトM(モノづくりを支える先進材料・加工技術開発プロジェクト)」のシンクロトロン光活用技術分野(シンクロトロン光の清酒製造プロセスへの活用)への参画が決定し、研究リーダーとして民間企業や他大学との共同研究を推進した。 ・日本文化学部事業「愛知県史展と愛知文化遺産の探究」として、愛知県県史編さん室との共催により、本学における図書館展示「愛知県史展戦争と大学」や公開講演会「戦争と大学」(参加者210名)、愛知県史連続講座(3回、参加者：合計134名)を実施した。 ・愛知県主催の第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会と本学情報科学部の連携により、学内においてロボットシンポジウムを開催し、障害をテーマとした講演や福祉ロボット等の展示・実演を行うとともに、学外においては学生を主体としたロボット展示を行った。 	
<p>38 愛知県教育委員会と高大連携事業を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県教育委員会と「知の探究講座」を継続する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、愛知県教育委員会との高大連携事業として「知の探究講座」を開講した。28年度は情報科学部の教員による「プログラミングの扉を開く」(全8回)を実施し、県内高校生32名が参加した。また、1月に名古屋工業大学にて開催された全体発表会に出席し、6大学の講座を受講した各グループによる成果発表と6大学の教員による講評を行った。 	

<p>39 長久手市、その他の自治体、産業界、名古屋市立大学などの他大学との連携を拡充する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長久手市大学連携基本計画の策定を通じて、大学と地方自治体との協働によるまちづくりを進める。 ・地域課題解決のため、他団体との連携について検討する。 ・名古屋市立大学との連携事業を企画・実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・29年度の長久手市大学連携基本計画の策定に向け、本学教員を中心に市内4大学（県大、芸大、愛知医科大、愛知淑徳大）で協議を開始し、長久手市と大学との協働によるまちづくりについて検討を進めた。また、同4大学と長久手市で構成する長久手市大学連携推進協議会において、地域の課題解決及び地域の魅力向上を図る大学連携提案助成事業の募集があり、地域防災情報の多言語化など、本学教員・学生による申請2件が採用された。また、長久手市長秘書インターンシップ募集の企画立案に協力し、本学学生1名がインターンシップに参加した。 ・情報科学部の専門教育科目「メディアプレゼンテーション論」に地域課題解決の要素を組み込み、「愛・地球博記念公園ならびにリニモ魅力化計画」をテーマとした学生によるプレゼンテーション発表会を行った。その審査には、本学地域連携センター長に加え、愛知県振興部交通対策課、愛知県建設部公園緑地課、愛・地球博記念公園管理事務所、愛知県高速交通株式会社、長久手市、市長公室経営企画課が参加した。 ・尾張旭市教育委員会と連携協定を締結し、大学の教職課程への「学校インターンシップ」導入に際して、教員養成と学校現場支援の両観点から、大学と教育委員会の間での試行実施と今後の実施に向けた検討を行った。 ・NPO法人G-net、三井物産株式会社中部支店等の団体・企業の協力の下、外国語学部「グローバル人材プログラム」の授業「地域ものづくり学生共同プロジェクト」[参考資料10]（学生51名参加）として、学生が海外展開を目指す地元企業9社と連携して課題解決に取り組み、8言語によるPR記事作成を行った。中には商品企画に携わり、消費者アンケートの設計実施、商品企画、広報まで全てを学生が担当し、実際に商品化が決定した取組もあるなど、地元企業との連携を促進した。 ・名古屋市立大学との連携事業として、外国語学部公開授業「2人の女性首相から見るイギリス女性史」（参加者：85名）、名古屋・東海地区外務省セミナー「学生と語る」（参加者：220名）を開催した。また、愛知県振興部及び名古屋市立大学と「あいち地域づくり連携大学」を企画・実施し、市町村職員と名古屋市立大学、本学の学生が共同で地域課題解決に向けた施策の提案を行った。 <p style="text-align: right;">[データ集7]</p>	
--	--	--	--

<p>40 一般向け学術講演会及び生涯学習支援をはじめとする公開講座を開催し、研究の成果を地域の発展に繋げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学術講演会及び公開講座を継続的に実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学術講演会として、第1回『詩人を招く「安らぐということ」』、第2回『複数の「私」を生きる～個人から分人へ～』、第3回『「私」の制作―歴史の物語り論>の視点から―』を実施したほか、公開講座『“私”の歴史～自伝・ゆくすえ・主体性～』など、21企画（参加者数計5,156名）を実施した。 <p style="text-align: right;">[データ集7]</p>																					
<p>41 (指標) 一般向け学術講演会及び公開講座を毎年度10企画開催する。</p>		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <table border="1" data-bbox="1056 520 1947 709"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画・回</td> <td>13企画 61回</td> <td>16企画 59回</td> <td>18企画 59回</td> <td>21企画 65回</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>3,368名</td> <td>5,418名</td> <td>3,198名</td> <td>5,156名</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">[データ集7]</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	企画・回	13企画 61回	16企画 59回	18企画 59回	21企画 65回	参加者	3,368名	5,418名	3,198名	5,156名						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度																			
企画・回	13企画 61回	16企画 59回	18企画 59回	21企画 65回																			
参加者	3,368名	5,418名	3,198名	5,156名																			
<p>42 小・中・高等学校の現職教員や看護師等に対する研修等を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 認定看護師教育課程を運営し、がん性疼痛看護認定看護師を育成する。 看護師を対象とした研修会及び個別研究指導を実施する。 教員免許状更新講習を開講するとともに、教育委員会等と連携した取り組みを実施する。 卒業生教員等と連携し、現職教員及び本学教職課程履修者を対象とした研修を実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定看護師教育課程[参考資料11]を引き続き運営し、がん性疼痛看護を開講、15名が課程を修了した。 看護職を対象とした研修会及び研究個別指導を、以下のとおり実施した。 <table border="1" data-bbox="1056 1066 1947 1339"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護職者一般対象の研修会</td> <td>6件 453名</td> <td>7件 646名</td> <td>8件 640名</td> <td>8件 538名</td> </tr> <tr> <td>認定・専門看護師対象研修会</td> <td>6件 447名</td> <td>6件 461名</td> <td>6件 381名</td> <td>5件 405名</td> </tr> <tr> <td>個別指導</td> <td>9件</td> <td>10件</td> <td>9件</td> <td>11件</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き教員免許状更新講習を実施し、28年度からの新たな開講形式に倣い必修科目1講座、選択必修科目1講座、選択科目4講座を開講した（受講者（実人数）H28:161名（H27:151名））。また、愛知教育大学を代表校とする「大学間連携共同教育推進事業」の連携校として、名古屋市教育委員会を含む他の連携機関・連携校とともにeラーニングによる「学校図書館司書教諭」プログラムの実施に協力した。 本学卒業生の愛知県高校国語科・英語科教員による同窓会組織「あゆち会」と連携した、現職教員・本学教職課程履修者対象の研修会を実施した。 	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	看護職者一般対象の研修会	6件 453名	7件 646名	8件 640名	8件 538名	認定・専門看護師対象研修会	6件 447名	6件 461名	6件 381名	5件 405名	個別指導	9件	10件	9件	11件	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度																			
看護職者一般対象の研修会	6件 453名	7件 646名	8件 640名	8件 538名																			
認定・専門看護師対象研修会	6件 447名	6件 461名	6件 381名	5件 405名																			
個別指導	9件	10件	9件	11件																			

43 地域住民のニーズに応じた事業を実施する。

・医療分野ポルトガル語スペイン語講座について、文部科学省により採択された「職業実践力育成プログラム」を実施する。

・子育て支援もりっこやまっこ事業を継続的に実施するとともに、守山区の子育て支援事業に協力する。

「年度計画を十分に実施している」

・新たにポルトガル語入門講座をサテライトキャンパスにおいても開講するなど、医療分野ポルトガル語スペイン語講座[参考資料1 2]を引き続き実施した(全受講者数31名(H27:28名))。また、28年度からは本講座の一部を文部科学省により採択された「職業実践力育成プログラム」[参考資料1 3]として実施した(31名中24名)。

【受講者数】(()内はサテライトキャンパス受講者数)

言語	レベル	25年度	26年度	27年度	28年度
ポルトガル語	入門	1名	0名	0名	6(5)名
	初級	15(12)名			
	中級	2名	8(8)名		9(9)名
	中級(発展)			11(11)名	
スペイン語	入門	1名	2名	2名	1名
	初級	18(17)名			
	中級	3名	17(17)名		15(15)名
	中級(発展)			15(15)名	
計		40(29)名	27(25)名	28(26)名	31(29)名

・子育て支援「もりっこやまっこ」事業を以下のとおり開催した。さらに、本事業は28年10月に10年目を迎えたことから、記念事業(2企画)を行った。

・守山区子育て支援ネットワーク事業守山チーム会議に本学教員1名が参加するとともに、守山区のイベント「もりやまっこ子育て広場」に本学教員を講師として派遣し、ミニ講座や子育て相談を行った。

	25年度	26年度	27年度	28年度
「もりっこやまっこ」開催回数	14回	13回	15回	15回
「自由ひろば」	14回	13回	15回	15回
「もりっこやまっこサロン」	6回	7回	5回	7回
延べ参加組数	965組	1,125組	1,165組	1,442組
新規登録組数	219組	242組	206組	233組

項目別の状況

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

2 愛知県立芸術大学

(1) 教育に関する目標

中期目標	<p>ア 入学者選抜 アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に基づき、芸術活動への意欲が高く、実技の基礎能力を備えた、芸術を通して人に感動を与えられる資質を持つ学生を確保する。</p> <p>イ 学部教育及び大学院教育 学生一人ひとりへのきめ細やかな指導に基づく世界レベルの専門・実技教育を促進し、芸術文化を担い、かつ創造する芸術家、研究者、教育者等、芸術文化に携わる優れた人材を育成する。 特に大学院教育においては、学部教育を基礎とした専門教育の充実を図りながら、様々な芸術表現に対応できる高度な専門能力を有する人材や自立して活動し得る芸術家・研究者、芸術文化の分野において中核的・指導的役割を担うことができる人材を養成する。</p> <p>ウ 卒業認定 卒業生と修了生の質を保証するため、成績評価基準を常に検証し必要に応じて改善するとともに、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）に基づき適正に卒業認定を行う。</p> <p>エ 学生への支援 学生の学習環境の整備や、国際的な芸術教育・活動、進路支援、健康管理、経済的な支援などを通じて、学生の学ぶ意欲を高めるとともに、安心して修学を継続できるようにする。</p>
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
<p>ア 入学者選抜</p> <p>44 アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に基づき、芸術活動の意欲が高く、実技の基礎能力があり、人を感動させられる学生を獲得するため、学部及び博士前期課程の入学定員や社会人、外国人等の入試制度を見直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入学者選抜の課題・対策を専攻・コースごとに検討するとともに、新大学入学者選抜制度の動向調査・フォロー等により入試制度の見直しを検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央教育審議会の「3 ポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」に基づき、両学部・研究科のアドミッション・ポリシーの見直しを行った。 作曲専攻作曲コースでは、従来の推薦入試に代わり、既卒者や社会人等、出願資格の幅を広げた自己推薦特別入試を新たに実施した。また、音楽研究科博士前期課程における外国人留学生のための入試制度の導入について、入試委員会及び研究科会議で検討した。新大学入学者選抜制度については、研修会への参加等による動向調査及び各学部入試委員会における情報共有を行い、全学体制で具体的な検討を進めることとした。 <p style="text-align: right;">[データ集1・2]</p>	
<p>45 様々な媒体により本学の魅力を発信して入試広報活動を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 芸術系高校や予備校ヒアリング、入試状況の分析等を通じ、より効果的な入試広報を検討し、様々な媒体による本学の魅力発信を積極的に実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 芸術系高校、予備校へのヒアリングでの強い要望を踏まえ、入試合格作品のホームページ公表を油画専攻に拡大し、残る彫刻専攻についても29年度からの実施を決定した。また、これまでの入試状況の分析等から、美術系大学志願者が多いと考えられる広島にて新たに大学説明会を実施するなど、入試広報の充実に努めた。 	

<p>イ 学部教育及び大学院教育</p> <p>46 専門分野の基礎教育や語学教育の充実を図り、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）に基づき、学生一人ひとりへのきめ細やかな指導を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学外の演奏家やアーティスト、外国人教員等による特別講座や公開演奏などにより、学生の多様な関心を喚起する専門分野の教育を引き続き実施する。 ・音楽基礎教育について、国内外大学の取組や最新の教育内容を参考に、本学学生に適応したあり方を検討する。 ・語学教育について、受講生の多い講義にTAを配置するなど、よりきめ細やかな指導を実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の多様な関心を喚起するため、各専攻の主催により、著名な学外アーティストなどによる「特別講座」や、外国人教員による「公開演奏（授業）」を引き続き実施した。（特別講座 H28:7回（H27:6回）、公開演奏（授業） H28:5回（H27:8回）） ・音楽基礎教育における科目間の相互連携及び内容の充実を図るため、他大学の取組や海外の音楽大学における新しい「基礎理論」の考え方を参考に、学生の能力、音楽の志向に応じたクラス分けや、共通教材を用いた学習内容の関連付け（「ソルフェージュ」（基礎グレード）と「西洋音楽史概説」）を行うなど、引き続きソルフェージュを中心とした音楽基礎教育の改革を推進した。また、音楽基礎教育の内容の更なる充実を図るため、29年度には、音楽基礎教育（主にソルフェージュ、和声、西洋音楽史）の各科目担当教員（非常勤講師も含む）による検討会議を新たに実施することを決定した。 ・よりきめ細やかな指導を行うため、受講生の多い初級外国語科目（英語、ドイツ語、イタリア語）の授業8科目に対し、28年度から新たに13名のSAまたはTAを配置した。また、学生への語学検定試験受験料について、芸術大学後援会から新たに助成を受けるなど、学生の語学に対する学習意欲の向上を図った。（助成件数：12件） ・中央教育審議会の「3ポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」に基づき、両学部・研究科においてカリキュラム・ポリシーの見直しを行った。 	
<p>47 学生の国際交流事業の充実や著名なアーティスト・研究者の招聘により、国内に留まらず世界に通用する芸術家を育成する専門・実技教育を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協定校との関係を深めるためのプログラムを引き続き実施する。 ・アーティスト・イン・レジデンス事業など、著名なアーティスト・研究者等による専門・実技教育を実施する。 	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワイマール・フランツ・リスト音楽大学（ドイツ）との演奏交流事業（学生11名が4公演に出演）や瀬戸内国際芸術祭における協定校7校との合同展覧会を実施するなど、海外協定校との交流を積極的に推進した。 <p style="text-align: right;">[データ集10]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界で活躍する卒業生アーティストや著名な海外アーティスト、さらに、美術・音楽の研究者など5名を招聘し、学生との共同制作、特別講義、創立50周年記念国際シンポジウム等を実施した。 <p style="text-align: right;">[参考資料14]</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・パリ=ソルボンヌ大学との博士論文共同指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽研究科博士後期課程において、本学とパリ=ソルボンヌ大学とのコチュテル（博士論文共同指導）（※）の協定に基づき、国際的な審査団による学位論文審査会を実施し、同制度による音楽分野日本初の博士号学位取得者を輩出した。 （※コチュテル（博士論文共同指導）：協定大学にも正規の学生として在籍し、両大学の教授による指導、学位審査を経て、両大学から学位を取得できる制度） 	
<p>48 様々な芸術表現に対応できる高度な専門能力を有する人材や自立して活動し得る芸術家・研究者、芸術文化の分野において中核的・指導的役割を担うことができる人材を養成するため、学部と大学院の連携により専攻・コース・領域の枠にとらわれることなく学修できる体制を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・創立 50 周年記念事業において、専攻・コース・領域等を超えた企画を検討し、実施する。（美術・音楽） ・古典絵画の保存・修復の教育を推進する。 ・芸術祭など外部における芸術文化活動に積極的に参画する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創立 50 周年記念事業として、音楽と美術の卒業生、教員、在学生の総力を結集したオペラ公演、国内外で活躍する卒業生による選抜展覧会、卒業生を始め学内外の演奏家による記念オーケストラ、海外協定校と音楽学コース・芸術学専攻共同による国際シンポジウム、美術と音楽の融合による芸術作品の展示など、様々な連携による数多くの企画を検討、実施した。 [参考資料 1 5] [データ集 8・9] ・美術研究科博士前・後期課程において、修復専門講師の指導の下、岐阜市真長寺仏画の修復実習を実施し、文化財保存修復学会での成果発表を行うとともに、学内での修復実習公開報告会を実施し、学部生にも参加を促した。 ・名古屋芸術大学・名古屋造形大学との共同による芸術大学連携プロジェクト[参考資料 1 6]や、在学生・卒業生のサポートによる海外アーティストとの共同制作を行うなど、あいちトリエンナーレ 2016 に参画した。 ・瀬戸内国際芸術祭 2016 における企画として、協定校 7 大学との国際交流展やコンサート等を実施するなど、教員・在学生・卒業生の連携により国際芸術祭本番年の様々な芸術文化活動に積極的に取り組んだ。 ・全国障害者芸術・文化祭あいち大会のオープニングとして、東京芸術大学との共演によるコンサートを実施した。 [データ集 8・9] 	

<p>49 博士課程においては、教務に関する運営の見直しなど前期・後期課程の連携を促進し、副指導教員を配置するなど研究・指導体制の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 副指導教員を配置するとともに、博士前期及び後期課程の連携について引き続き検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術研究科では、研究・指導体制の充実に向け、副指導教員の配置、非常勤講師による論文指導時間の増加、外部審査委員の本格導入などを実施した。博士前期課程・後期課程の連携促進については、前期課程学生が後期課程の公開授業を聴講しやすくするための検討及び入試を含めた前後期課程の一貫した指導体制づくりの検討を始めた。 音楽研究科では、副指導教員の増員（H27:5名→H28:7名）を行うなど、研究・指導体制の充実を図るとともに、後期課程科目「特別演習」、ドクトラルコンサート（後期課程学生の研究成果の発表及び公開審査）への前期課程学生の聴講参加など、博士前期・後期課程の連携を促進した。 	
<p>50 FD 活動については、国公立五芸大との間で情報交換を行うとともに、授業アンケートの結果等を活用して教育内容・方法の改善を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国公立五芸大においてFD活動に関する意見交換を行い、本学のFD活動の参考にする。 授業アンケートを活用し、教育内容・方法の改善に役立てる。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 金沢美術工芸大学で開催された国公立五芸祭での意見交換会において、他大学の取組事例等について情報交換を行い、その内容を学生支援センター運営委員会に還元し情報共有を図った。また、FD活動の充実を図るため、専攻・コースごとの様々な取組を分かりやすく一覧にとりまとめるなど、相互に活用できるよう28年度からFD活動報告書様式を変更した。 全学的に年2回実施した授業アンケートの結果等を踏まえ、授業の進め方や板書の仕方などの見直しや、初年次教育として「レポートの書き方」と題するセミナーの試行を決定するなど、教育内容・方法の改善を図った。 	
<p>ウ 卒業・修了認定</p> <p>51 教育の質の保証を担保するため、成績評価基準を常に検証し、必要に応じて改善する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 客観性・透明性等の観点から成績評価基準を検証し、必要に応じて改善する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術学部では、シラバスに記載する成績評価基準について、教務委員会でより分かりやすい記載方法を検討し、記入例を作成、周知した。また音楽学部ピアノコースでは、専攻実技の評価を実技審査の評点だけでなく平常点を加味した総合的評価とすること、卒業演奏等で「プログラムノート」の執筆を課して実技審査の参考にすること等の改善を行った。音楽専攻では、より適切かつ公平な実技試験を行うために試験会場を変更するなど、より適切な評価の実施に向け必要に応じて改善を行った。 	

<p>52 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）に基づき適正に卒業認定を行い、卒業制作・卒業演奏など対外的な公表を積極的に実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、ディプロマ・ポリシーに基づく適正な卒業認定を行い、対外的な発表・PRの機会である卒業・修了制作展、卒業試験・修士演奏などを効果的・積極的に実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央教育審議会の「3 ポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」を基に、学生が身に付けるべき資質・能力の目標をより分かりやすく示すため、ディプロマ・ポリシーの見直しを行った。 卒業・修了制作展では、オープニングセレモニーにて本学音楽学部・研究科による記念演奏やマスコミへの情報発信等のPRを積極的に行うとともに、学生による作品解説・ギャラリートーク、教員・外部評価委員等による講評の公開など、様々な企画による対外的な公表を積極的に行った。また、音楽学部・研究科では卒業試験を一部一般公開で実施するとともに、卒業演奏会・大学院生によるコンサートを引き続き学外のコンサートホールにて実施し、対外的なPRに努めた。 <p>【来場者・参加者数】</p> <table border="1" data-bbox="1207 814 1961 1316"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>卒業・修了制作展 (全会場計)</td> <td>4,927人</td> <td>5,172人</td> <td>4,865人</td> <td>4,924人</td> </tr> <tr> <td>美術関係者との交流会 (うち学生数)</td> <td>64人 (26人)</td> <td>92人 (56人)</td> <td>80人 (50人)</td> <td>57人 (37人)</td> </tr> <tr> <td>卒業演奏会・大学院生によるコンサート</td> <td>1,169人</td> <td>1,222人</td> <td>1,742人</td> <td>1,383人</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	卒業・修了制作展 (全会場計)	4,927人	5,172人	4,865人	4,924人	美術関係者との交流会 (うち学生数)	64人 (26人)	92人 (56人)	80人 (50人)	57人 (37人)	卒業演奏会・大学院生によるコンサート	1,169人	1,222人	1,742人	1,383人	
	25年度	26年度	27年度	28年度																			
卒業・修了制作展 (全会場計)	4,927人	5,172人	4,865人	4,924人																			
美術関係者との交流会 (うち学生数)	64人 (26人)	92人 (56人)	80人 (50人)	57人 (37人)																			
卒業演奏会・大学院生によるコンサート	1,169人	1,222人	1,742人	1,383人																			
<p>エ 学生への支援</p> <p>53 制作環境や練習環境など学生の学習環境を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生の学習環境改善のため、彫刻アトリエの修繕工事等教室の整備を行うとともに、図書館所蔵の楽譜の更新・整備等を行う。 愛知県による講義棟、美術学部棟、デザイン棟など8棟の機能回復整備工事や新デザイン棟実施設計に協力する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 経年劣化した彫刻アトリエの天井改修や図書館の書庫タイルの張替え等を行うなど、学生の学習環境の改善を図った。また、図書館では、汚破損・旧版楽譜等の買い替えや図書資料の検索方法に関する案内書の見直し、図書館新システムの導入を行うなど、教材の充実、利便性の向上を図った。 愛知県による機能回復整備工事については、施設整備委員会、建築環境評価専門部会において施工状況報告を適宜行い、8月末に工事完了、引渡しを受けた。また、新デザイン棟実施設計については、外部有識者からの意見聴取も行いながら、施設整備委員会等において検討し、県に提案するなど協力を行った。 																					

<p>54 留学に関する支援体制を整備するとともに、留学情報の発信に努め、学生の国際的な芸術教育や展覧会・演奏会などの活動を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流室による学生の留学など海外渡航に関する支援を実施するとともに、国際交流に関する情報発信の充実について検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流室の専任職員による個別相談や渡航予定者への手続きサポート、協定校留学に関する説明会や報告会を実施するなど、学生の海外渡航支援を行うとともに、新たに SNS を活用するなど、国際交流に関する情報発信の充実を図った。 ・新たにミラノ大学との協定を締結し、留学生を受け入れるとともに、ワイマール・フランツ・リスト音楽大学との演奏交流事業に学生 11 名を派遣するなど、学生の国際的な芸術教育や芸術活動を支援した。 <p>[データ集 10]</p>	
<p>55 在学生から卒業生まで幅広く、就職支援や資格情報の提供を充実させ、学生の将来の目標、将来設計を啓発し、卒業後の自立に向けた支援をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的・実践的なガイダンスの開催や、就職希望者への情報提供の充実を図る。 ・学生の将来設計、目標設定を促すためのキャリア支援の取組を実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28 年度から新たに「女性の働き方講座」、「就活で使える芸大生の強み講座」を実施するなど、効果的・実践的なガイダンスを行った。また、昨年度初めて開催を実現した「芸術学生のための合同企業説明会」[参考資料 17]については、参加大学数・出展企業数の増加、教員採用ガイダンスの同時開催など、就職支援・資格情報の提供の更なる充実を図った。(合同企業説明会参加大学数 7 大学 (H27:6 大学)、出展企業数 55 社 (H27:41 社)、参加人数 419 人 (うち愛知芸大 116 人) (H27:411 人 (うち愛知芸大 131 人)) ・音大卒のライフスタイルアドバイザーによるキャリア教育講座「音大生のキャリアデザイン」や、新たに自己診断・職業適性検査を実施するなど、学生の将来設計、目標設定を促すためのキャリア支援の取組を実施した。 ・作家活動を継続している本学卒業生及び修了生については、サテライトギャラリーでの展覧会開催を継続的に支援した。また、在学生・卒業生・修了生の演奏家については、28 年度より新たに宗次ホールとの連携協定による共同企画「エマージングコンサート」[参考資料 18]を 3 回 (12 名) 実施し、企業の支援も得つつ自立支援を行った。 	

	25年度	26年度	27年度	28年度
就職ガイダンス (参加者数)	19回 (333人)	27回 (529人)	29回 (607人)	22回※ (419人)
教員採用試験 説明会	2回	3回	2回	3回
窓口相談	280回	195回	292回	384回
職業適性検査	5回	5回	5回	4回
学部就職内定率 (内定者数/ 就職希望者数)	88.4%	88.3%	88.6%	89.5%

※「芸術学生のための合同企業説明会」実施に伴い、学内での企業説明会の見直しを行ったことによる減少。

[データ集3]

56 保健室や学生相談室の機能を強化し、学生の健康で安全なキャンパスライフを支援する。

・メンタルケア、防犯・防災の取組など、健康で安全なキャンパスライフの更なる支援策を検討・実施する。

・障害者差別解消法に基づき、総合的・組織的な修学支援体制を検討・推進する。

「年度計画を十分に実施している」

・保健室・学生相談室の体制強化に向け、28年度より看護師の増員、学生相談コーディネーターの雇用を行うとともに、「修学支援キャラバン」として各専攻会議にて修学支援体制の紹介や質疑応答を行うなど、新体制の周知、浸透を図るための啓発活動を推進した。

・防災訓練については、授業終了10分前からの実施とすることにより学生参加を促すとともに、新たに簡易テントによる煙体験など各種体験の場を提供した。また、学生のキャンパスライフの安全確保のため、正門からのアプローチや学生用駐車場等の視界や通行の妨げとなっている樹木を伐採するとともに、照明・防犯カメラの増設等について検討した。

・総合的・組織的な修学支援体制を推進するため、障害者差別解消法に基づく学内の対応要領を整備した。また、4月より新たに学生相談コーディネーターを雇用し、障害学生や復学者との面談、コンサルテーション等の実施や、オープンキャンパス時の「修学相談」を行うなど、修学支援の充実を図った。

	25年度	26年度	27年度	28年度
臨床心理士による カウンセリング	延べ 152人	延べ 159人	延べ 263人	延べ 232人
学生相談コーディネーター による学生相談	—	—	—	129人

<p>57 学生に対する経済的支援として、各種奨学金の情報提供を充実するとともに、大学独自の奨学金の拡充を図る。</p>	<p>・各種奨学金の情報提供を充実するとともに、大学独自の奨学金について検討する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>・各種奨学金に関する情報を、学内の掲示板やポータルサイトに掲載することに加え、大学ホームページや SNS 等様々な手法により発信するとともに、新たに作成した奨学金推薦スケジュールを教員（学生委員）へ配付するなど、情報提供の更なる充実を図った。また、大学独自の奨学金として「倉岡伸欣ニューヨーク基金」に寄附金（100 万円）を受け入れ、運用開始に向けた調整を進めるとともに、名古屋名北ロータリークラブによる本学音楽学部生を対象とした「音楽奨学金」の創設により、1名の学生が助成を受けた。</p>	
--	---	---	--

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 2 愛知県立芸術大学
 (2) 研究に関する目標

<p>中期目標</p>	<p>世界レベルの質の高い研究や教員による芸術活動などを推進することにより、世界に発信する国際的な芸術文化を創造する拠点となることを目指す。</p>
-------------	--

<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>	<p>計画の実施状況等</p>	<p>評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど</p>
<p>58 専門性により特化した研究や海外提携校及び教育研究機関との交流により国際的に通用する質の高い研究を目指す。</p>	<p>・高野山金剛峯寺（高野町）所蔵応徳涅槃図の模写事業及び真長寺（岐阜市）所蔵仏画など文化財の修復、研究、調査、再現研究等を推進する。</p> <p>・名古屋市博物館など文化財を収蔵する研究機関に対し、引き続き連携研究の働きかけを行う。</p>	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <p>・26年度より着手した高野山金剛峯寺所蔵「応徳涅槃図」の模写作品が完成し、29年度からは新たに曼殊院所蔵「不動明王像」（国宝）、高野山明王院所蔵「不動明王二童子像」（重要文化財）の模写事業を開始することを決定した。また、真長寺所蔵仏画など東海地方の文化財の修復、研究、調査、再現研究等を引き続き行うとともに、受託研究2件、科学研究費助成事業による研究4件、メトロポリタン東洋研究所の助成金による研究1件を推進するなど、積極的に文化財の修復、研究等を推進した。(H27: 科研費3件のみ)</p> <p>・10月に愛知県美術館、名古屋市博物館などから28名の参加者を集め、文化財保存修復研究所主催講座「災害と文化財・地域文化財を守る」を開催し、文化財を収蔵する研究機関などとの連携研究の働きかけを行った。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・協定校及び教育研究機関等から教員を招聘し、展覧会等の交流事業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協定校であるロンドン芸術大学セントラル・セント・マーティンズとの映像作品等による交流事業やカリフォルニア大学サンディエゴ校教員との演奏会、ミラノ大学、パリ＝ソルボンヌ大学、台南芸術大学から研究者を招いて実施した国際シンポジウム、The School of the Museum of Arts at Tufts Universityとの国際交流展など、海外から多数の教員を招聘し、様々な交流事業を実施した。 ・27年度から開始したウズベキスタンとの国際交流事業の更なる推進に向け、独立行政法人日本学術振興会の研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）に申請し、芸術大学として初めて採択された。（研究課題：「現代に生きる”手漉き紙と芸術表現”の研究～サマルカンド紙の復興を中心に～」、研究交流先：ウズベキスタン・中国・韓国の芸術系大学） [参考資料19] 	
<p>59 展覧会・演奏会など芸術家集団としての教員による芸術活動を推進し、その成果を世界に発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・創立50周年記念として、展覧会・演奏会などの記念事業を実施する。（美術・音楽） ・協定校及び教育研究機関等へ本学教員を派遣し、積極的な交流を図る。 ・受託研究・受託事業等を積極的に実施するとともに、芸術祭等に参画し、その成果を発信する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創立50周年記念事業として、音楽と美術の卒業生、教員、在学生の総力を結集したオペラ公演、海外協定校との連携による国際シンポジウムや国際交流展、本学教員や国内外で活躍する卒業生による展覧会や記念オーケストラ、名古屋フィルハーモニー交響楽団とのスペシャル・ジョイント・コンサートなど、多数の企画を実施し、本学の芸術活動を積極的に発信した。 [参考資料15] ・大連民族大学（中国）への講義・学外ゼミ・学位審査等のための派遣、ドイツ、ニューヨーク等における和紙に関する講演・ワークショップの実施、ウェスタンシドニー大学（オーストラリア）や各国国際シンポジウム（パリ・香港等）での成果発表など、海外における様々な交流や芸術活動の発信を積極的に行った。（教員の海外派遣件数34件（H27:35件）） ・「セラミックコンペティション事業 CLDA」[参考資料20]や「イオンモール長久手店の壁画デザイン研究」を始め、受託研究・共同研究8件、受託事業14件、その他補助金事業9件を推進した。 ・文化財保存修復事業については、安城市歴史博物館における「聖徳太子絵伝」現状模写作品の展示や模写展覧会の実施、年報の発行など、積極的に研究成果を発信した。 	

・「あいちトリエンナーレ 2016」では、海外芸術家との共同制作等による作品展示や他の芸術大学との連携による展覧会・トークショー等を、「瀬戸内国際芸術祭 2016」では、協定校 7 校との国際交流展、演奏会を開催するなど、国際的にも注目される 2 つの芸術祭に継続して参画することにより、海外からの来訪者等への積極的な発信を行った。

[参考資料 1 6]

	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
受託研究・共同研究	5 件	9 件	11 件	8 件
受託事業	7 件	13 件	11 件	14 件
その他補助金事業	0 件	3 件	10 件	9 件
計	12 件	25 件	32 件	29 件

[データ集 5]

・「愛知県立芸術大学リポジトリ」の登録件数増加及び学内周知を図る。

・28 年度より紀要以外の文献として音楽学部発行誌掲載論文の登録作業を開始するなど、国立情報学研究所共用リポジトリシステム(JAIRO Cloud)を活用した「愛知県立芸術大学リポジトリ」への論文の登録・公開を引き続き行った。(登録件数 H27:235 件→H28:342 件) また、図書館ウェブサイトに加え、図書館新システムの検索画面にリポジトリへのリンクを新たに設け、よりアクセスの利便性を高めるとともに、委員会で教員への働きかけを行うなど、学内周知を図った。

60 科学研究費補助金及びその他の助成金について、申請件数の増加を図る。

・科研費及びその他の助成金について、内容周知・情報提供等をタイムリーに実施する。

「年度計画を十分に実施している」

・助成金公募について月 1~2 回の頻度で定期的に情報発信するとともに、関心度の高い「海外派遣招聘」等の分野の前年度公募状況を一覧化し全教員へ配信するなど、積極的な学内周知に努めた。また科学研究費補助金については、県立大学にて開催の申請希望者対象講習会・説明会を中継するとともに教授会にて概要説明を実施し、申請の働きかけを行った。

[データ集 5・6]

61 (指標) 毎年度 20 件の申請を目指す。		「年度計画を十分に実施している」				
		・28 年度の申請件数は 32 件となり、目標を達成した。				
		【科研費及び助成金申請状況】 () は採択件数				
			25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
		科学研究費補助金	9 件 (3 件)	10 件 (3 件)	11 件 (3 件)	9 件 (2 件※)
その他助成金	13 件 (3 件)	15 件 (9 件)	38 件 (18 件)	23 件 (9 件※)		
合計	22 件 (6 件)	25 件 (12 件)	49 件 (21 件)	32 件 (11 件)		
		※採択結果待ちあり (科研費 3 件、その他助成金 2 件)				
		[データ集 6]				

第 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 2 愛知県立芸術大学
 (3) 地域連携・貢献に関する目標

中期目標	地域の芸術文化を担い、支える人材の育成、県民が芸術に親しむ機会の創出など、愛知県や他の自治体、産業界、名古屋市立大学などの他大学、地域社会等との多様な連携を通じて、芸術文化の発展に貢献する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
62 愛知県や他の自治体、産業界、他大学、地域社会との連携を通じて、地域文化を担う人材を育成し、あいちトリエンナーレへの参画など地域の芸術文化の発展に貢献する。	・芸術講座や演奏家の派遣など地域に向けた取組を積極的に実施する。	「年度計画を十分に実施している」 ・一般向けの芸術講座として、「『越境する身体』西村陽平と出会った子どもたち」、「ブラームスプロジェクト レクチャーコンサート」など 25 講座 (参加者計 : 2,296 人)、地域への演奏派遣として「小学校であーと」(長久手市)、「お出かけミニコンサート 2016」(一宮市)、「山の小学校の演奏会」(設楽町) 等 22 件を実施した。また、宗次ホールでの「愛・知・絆チャリティコンサート VI」やサテライトギャラリーでのあいちトリエンナーレ 2016 パートナーシップ事業の実施、長久手市郷土資料室特別展への講師派遣など、地域に向けた様々な取組を積極的に実施した。 [参考資料 2 1] [データ集 7・8・9]	

	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体、産業界、他大学との連携を通じて地域文化を担う人材育成に貢献する。 ・あいちトリエンナーレ 2016 や瀬戸内国際芸術祭に参画し、地域の芸術文化の発展に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般財団法人神戸財団と本学セラミックデザインコースとの共催による、陶磁器関連産業の活性化及び人材育成のためのセラミックコンペティション事業 CLDA(セラミックライフデザインアワード 2016) [参考資料 20]の審査を行い、13 名の入賞・入選者を選出した後、入賞・入選作品展を東京及び名古屋で開催した。 ・瀬戸市、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングと本学デザイン専攻学生、県立大学国際関係学科の学生との共同による「せとまちブランディング」の取組を始め、常滑市、長久手市等の自治体と連携した取組を積極的に実施した。 ・宗次ホールとの連携協定を締結し、演奏家の育成支援プロジェクト「エマージングコンサート」 [参考資料 18]を 3 回実施した。 ・東京藝術大学との連携による合同展覧会「物質としての絵画」や、本学及び公益財団法人名古屋市文化振興事業団主催・愛知県教育委員会等の後援による、The School of the Museum of Arts at Tufts University との合同展覧会、愛知県等が主催する全国障害者芸術・文化祭あいち大会におけるプレイベントとしての展覧会やオープニングコンサートなど、他大学や自治体等との連携による様々な取組を推進した。 ・あいちトリエンナーレ 2016 では、アートラボあいちにおける展覧会やトークショー、県内 3 つの芸術大学による芸術大学連携プロジェクト等を開催した。また、瀬戸内国際芸術祭の企画として、高松市女木島の龍潜荘を会場とした協定校 7 大学との国際交流展や、本学所有施設 MEGI HOUSE においてコンサート等を開催し、地域の芸術文化の発展に貢献した。 [参考資料 16] [データ集 8・9] 	
<p>63 美術館や博物館との連携による展覧会・演奏会の開催、栄のサテライトギャラリー及び豊田市藤沢アートハウスの活用などにより、県民が芸術に親しむ機会を創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会・演奏会を通じた地域との交流を促進する。 	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半世紀にわたる芸術大学の活動の集大成として創立 50 周年記念事業を企画し、寄附金約 56 百万円（寄附金収入計約 73 百万円）を財源に、県内各所を中心に 13 件の記念事業を教員・学生・卒業生が総力を挙げて推進した結果、メイン事業を始め、様々な企画において多くの来場者があり（計約 27,000 人）、メディアでも高い評価を得るなど、年間を通して県民を始めとする多くの方々に芸術大学がより身近な存在となる機会を創出した。 	

○創立 50 周年記念事業

[メイン事業]

企画	日程・場所・来場者
創立 50 周年記念式典・祝祭管弦楽 団公演	28. 5. 24 愛知県芸術劇場 コンサ ートホール 1, 479 人
創立 50 周年記念展示「芸術は森か らはじまる」	28. 9. 3～9. 24 愛知県立芸術大学 4, 315 人
創立 50 周年記念オペラ公演プッチ ーニ作曲「ラ・ボエーム」	28. 9. 25 愛知県芸術劇場 大ホー ル 1, 881 人

[その他主な事業]

企画	日程・場所・来場者
日本画専攻企画展示「愛知県立芸 術大学模写展～片岡球子が遺し た古典模写事業とその後継者た ち～」	28. 4. 2～5. 29 古川美術館 4, 685 人
創立 50 周年記念国際シンポジウム 「異文化へのまなざし」	28. 9. 23, 24 愛知県立芸術大学 500 人
展示「森の DNA 芸術は森からはじ まる」	28. 11. 18～29. 2. 26 ヤマザキマザック美術館 6, 632 人
創立 50 周年 愛知県立芸術大学× 名古屋フィルハーモニー交響楽団 スペシャル・ジョイント・コンサ ート	29. 2. 18 愛知県芸術劇場 コンサ ートホール 1, 364 人
日本画専攻企画展示「日本画専攻の 半世紀」	29. 1. 14～3. 12 名都美術館 3, 400 人

*その他、専攻別企画、国際交流事業（管打楽器コース）を実施。

[参考資料 1 5]

・長久手市や瀬戸市など近隣市町村のみならず四日市市等県外
への演奏派遣を実施し、積極的に地域との交流促進を図った。
(展覧会 49 件 (H27:40 件)、演奏会 68 件 (H27:60 件)、演奏派
遣 22 件 (H27:29 件))

[データ集 8・9]

	<ul style="list-style-type: none"> ・栄のサテライトギャラリーにおいて、あいちトリエンナーレ 2016 パートナーシップ事業として展示等を実施し、県民が芸術に親しむ機会を創出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライトギャラリーにおいて、28 年度に開催する全ての展覧会をあいちトリエンナーレ 2016 パートナーシップ事業として申請し、積極的に広報することにより、県民を始めとしたより多くの方々の来場を促し、過去最高の 7,984 人が来場した。 <p style="text-align: right;">[データ集 8]</p>											
<p>64 (指標) 栄サテライトギャラリーの展覧会等入場者数について、平成 30 年度に 4,000 人を目指す。</p>		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいちトリエンナーレ 2016 パートナーシップ事業として積極的に広報した結果、28 年度の総入場者数は 7,984 人に達し、3 年連続で 4,000 人の目標を上回った。 <table border="1" data-bbox="1231 594 1970 730"> <thead> <tr> <th></th> <th>25 年度</th> <th>26 年度</th> <th>27 年度</th> <th>28 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サテライト入場者数</td> <td>3,622 人</td> <td>4,346 人</td> <td>4,070 人</td> <td>7,984 人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">[データ集 8]</p>		25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	サテライト入場者数	3,622 人	4,346 人	4,070 人	7,984 人	
	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度									
サテライト入場者数	3,622 人	4,346 人	4,070 人	7,984 人									
<p>65 文化財の研究調査、保存、修復、理論研究、再現研究等を推進するとともに、その運営体制等の事業プランを策定し、実現を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・27 年度完成の新施設において、文化財の保存・修復事業等を推進するとともに、新規事業の受託獲得に努める。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存修復研究所新施設において、28 年度から新たに 5 件 10 作品の文化財の保存・修復事業を推進するとともに、受託研究 2 件、科学研究費助成事業による研究 4 件、外部助成金（メトロポリタン東洋研究所）による研究 1 件を推進し、7 月には公開研究会、10 月には「災害と文化財」をテーマに講座を開催した。また 1 月には修復作品の公開報告会を行うとともに、年報等による成果発表、広報を行った。 											

項目別の状況

第2 法人運営の改善に関する目標
1 組織運営の改善に関する目標

中期目標	大学法人を取り巻く厳しい競争的環境の下、競争力のある、魅力あふれる大学づくりのために、理事長及び学長のリーダーシップの下、教職員が一体となって、自主・自律的かつ弾力的・機動的な運営を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
66 自己決定・自己責任の原則の下で、法人経営及び教育研究に関わる法人運営についてPDCAを推進し、組織・業務運営の高度化・改善を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き3C (Check, Change, Challenge) → P→D→3Cの定着化を進め、28年度計画を推進する。 組織・業務運営の高度化・改善を推進するため、設置者である県との意見交換会を定期的実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部門等において、挑戦的な取組も含めた28年度計画を着実に推進し、進捗管理表による進捗確認を定期的に行うとともに、役員会等に報告した。法人運営項目については、理事兼事務局長による所管課長等への個別ヒアリングを新たに実施し、取組状況の確認、助言等を行った。また、第2期中期計画前半の実績及び評価結果の整理と振り返りを行い、29年度以降の課題や取組について、委員会等において検討した。 設置者と本法人による「愛知県・公立大学法人連絡調整会議」を年7回実施し、組織・業務運営の高度化・改善に向け、役員会の結果に関する意見交換や大学のあり方に関する検討を行った。 	1	Ⅲ	Ⅲ	
67 理事長及び学長のリーダーシップの下で、誰もが誇りに思う大学づくりに向け、予算配分や人員配置などについて計画的な資源配分を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 年度計画を軸にした予算編成の実施により、事業の見直しによる財源捻出と重点事業への再配分を促進する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 29年度予算編成に向け、新たに、理事長・学長トップマネジメントによる予算編成の手法を検討、試行することとし、予算シーリングを踏まえた各部局による事業見直し等の結果捻出した財源を基に、理事長・学長のリーダーシップに基づく重点事業等への再配分を行った。 	1	Ⅲ	Ⅲ	
68 (指標) 毎年度、事業費予算の10%のスクラップアンドビルドを目指す。		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業費予算の11.2%についてスクラップアンドビルドを実施した。 $H29 \text{ 廃止} \cdot \text{見直し事業費} / H28 \text{ 事業費予算} = (294 \text{ 百万円}) / (2,628 \text{ 百万円}) = 11.2\%$	1	Ⅲ	Ⅲ	

69 より効果的かつ円滑な組織運営に向け、大学組織及び事務組織の体制見直し・整備などを適時適切に検討する。	・「戦略企画室」を活用し、今後の大学戦略を系統的に推進する。	「年度計画を十分に実施している」 ・大学戦略を系統的に推進するため、4月に県立大学の「将来構想室」を「戦略企画室」に改称し、学内情報の集約・分析を始め、新グローバル人材育成事業立ち上げに向けた検討、3ポリシーの見直し、大型外部資金獲得に向けた取組など、学部・学科の枠を超えた取組等に関する企画、戦略立案等を行った。	1	Ⅲ	Ⅲ	
---	--------------------------------	--	---	---	---	--

(ウエイト付けの理由)

第2 法人運営の改善に関する目標
2 人材の確保・育成に関する目標

中期目標	教員・職員の一人ひとりが、県民の期待に応え、信頼され、高い評価を受けられるよう、人事諸制度の適切な運営を推進する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウエイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
70 教員については、その意欲を高め、能力を発揮し、教育研究や大学運営の質的向上につながるよう、公募制、人事評価制度など、適切な運用・改善を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の採用は、公募採用を原則とする。 ・教員評価機関による人事評価を実施するなど、人事給与制度を適切に運営する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立大学では11名（外国語学部5名、日本文化学部1名、看護学部2名、教養教育センター1名、グローバル実践教育推進室1名、看護実践センター1名）、芸術大学では音楽学部2名の教員を公募で採用した。また、県立大学では、大学ホームページの英語サイトへ外国人教員の公募情報のリンクを追加し、より広く周知を図った。 ・各教員が実施した自己点検・自己評価の内容を基に、教員人事評価委員会（県大）及び教員評価委員会（芸大）において評価を行い、次年度の昇給に反映した。芸術大学においては、より適切な点検・評価を行うため、自己点検・評価シートについて総括コメントを記入する形に様式を見直した。 	1	Ⅲ	Ⅲ	

<p>71 職員については、愛知県の派遣職員から法人固有職員への切り替えを進める。</p>	<p>・愛知県の派遣職員と法人固有職員のあるべき配置案について検討する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>・役職ポストについては、法人固有職員の育成状況に合わせて派遣職員から法人固有職員へ段階的に置き換えていくことを前提として、「事務職員人材育成方針」の全面改正及び「事務職員人事異動方針」の策定を行うとともに、これらに基づき、研修や人事異動等を実施した。</p>	1	Ⅲ	Ⅲ																					
<p>72 (指標) 平成 30 年度末時点で法人固有職員比率 70%を目指す。</p>		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>・法人固有職員比率は 28 年度末時点で 74.0%となり、前年度に引き続いて目標の 70%を上回った。</p> <table border="1" data-bbox="1107 594 1863 814"> <thead> <tr> <th></th> <th>25 年度末</th> <th>26 年度末</th> <th>27 年度末</th> <th>28 年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固有職員数</td> <td>59 人</td> <td>64 人</td> <td>79 人</td> <td>77 人</td> </tr> <tr> <td>正規職員総数</td> <td>105 人</td> <td>101 人</td> <td>108 人</td> <td>104 人</td> </tr> <tr> <td>比率</td> <td>56.2%</td> <td>63.4%</td> <td>73.1%</td> <td>74.0%</td> </tr> </tbody> </table>		25 年度末	26 年度末	27 年度末	28 年度末	固有職員数	59 人	64 人	79 人	77 人	正規職員総数	105 人	101 人	108 人	104 人	比率	56.2%	63.4%	73.1%	74.0%	1	Ⅲ	Ⅲ	
	25 年度末	26 年度末	27 年度末	28 年度末																						
固有職員数	59 人	64 人	79 人	77 人																						
正規職員総数	105 人	101 人	108 人	104 人																						
比率	56.2%	63.4%	73.1%	74.0%																						
<p>73 また、組織力を高めるため、職員の資質向上のための組織的な取組(スタッフ・ディベロップメント(SD))など、計画的な人材育成により職員のプロフェッショナル化を推進するとともに、人事制度の適切な運用・改善を推進する。</p>	<p>・職員の育成計画に基づく研修体系を整備する。</p> <p>・グローバル人材育成推進事業推進のため、語学力の高い職員を配置するとともに、「職員英語力向上制度」により、語学力の高い職員を育成する。</p>	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <p>・法人及び大学を取り巻く環境や大学職員の役割の変化及び法人固有職員主体の法人・大学運営への移行等を踏まえ、「事務職員人材育成方針」を全面改正し、それに基づく研修体系(階層別研修、専門研修、自己啓発研修等)の整備を図った。また、28 年度より新たに、階層別研修として、管理監督職員に必要な能力の習得・向上を目的とした部長・課長合同研修を実施した。</p> <p>・全面改正した人材育成方針に基づき、28 年度より新たに、相互の大学経営の実務習得及び大学間の情報交換等を目的に、名古屋大学との人事交流(1 名)を開始するとともに、設置者である愛知県への実務研修生派遣についても検討を進め、29 年度から 1 名派遣することを決定した。</p> <p>・職員の語学力向上のため、「職員英語力向上制度」[参考資料 2 2]による講座を引き続き実施した。(受講者 4 名)</p> <p>・27 年度に試行した「短期海外研修」[参考資料 2 3]について、英語力向上への意欲喚起と海外体験の重要性から、新たに要綱等を作成し、研修体系に正式に位置づけた上で、28 年度から本格実施した。(2 名、派遣先:カンボジア・ベトナム) また、3 月には、これまでに研修に参加した 6 名の職員による学内報告会を実施した。 (TOEIC800 点以上の正規職員数 H27:9 人→H28:11 人(各年度末時点))</p>	1	Ⅳ	Ⅳ																					

(ウェイト付けの理由)

第2 法人運営の改善に関する目標
3 効率的・合理的な業務執行に関する目標

中期目標	より効率的、機動的な組織運営、教育研究のサポート機能の向上のため、仕事を見直し、効率的・合理的な業務執行を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
74 職員の意識改革と仕事の見直しを行い、効率的・合理的な業務執行を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 職員が同一方向性のもとに効率的・合理的な業務運営に取り組むよう、法人・大学の運営方針等を職員に周知する。 仕事の進め方を見直しを行い、効率的・合理的な業務執行を推進する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の意識共有を図るため、法人・大学の運営方針等に関する学内発表会を年度当初に3キャンパスで開催し、従来の法人重点方針に加え、28年度は新たに大学挑戦目標についても併せて周知を行った。 職員のワーク・ライフ・バランスを推進するため、管理監督職員に対し、人事評価の目標設定に年次休暇の計画的取得や時間外縮減についての具体的な行動を計画させるとともに、ノー残業デーの導入を行った。また、効率的・合理的な業務執行に向け、各課から業務内容に関する意見等の集約を行った。 	1	Ⅲ	Ⅲ	
75 一層の業務システム化を目指すとともに、各種システムの統合的な管理を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> 制度改定や事務の効率化に対応するため、給与・財務・旅費等のシステムを必要に応じて改修・改良する。 現状機能に準拠した情報基盤ネットワークシステム (Airis) の更改を行う。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 制度改定に伴う人事給与システムの更改、利便性向上のための財務会計システムの改良、29年4月からの新旅費システムの改良など、各種システムの管理・運用を行った。 情報基盤ネットワークシステムの更改により、これまで各キャンパスそれぞれで運用していたネットワークシステムを統合するとともに、各キャンパス独自で割り振っていたIPアドレスの運用の統合などを図り、一括管理体制を構築した。 	1	Ⅲ	Ⅲ	

(ウェイト付けの理由)

第3 財務内容の改善に関する目標

中期目標 一定のルールに基づく運営費交付金を主な財源としつつ、外部研究資金、寄附金その他の自主財源の確保や、効率的な運営による管理的経費の抑制などにより、経営基盤を強化し、安定的な財務運営を実現する。

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェ イト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど																														
				自己評価	委員会評価																															
76 法人運営の安定性と自律性を確保するため、外部研究資金、寄附金等自己収入の増加に向けた取り組みを強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科研費等の外部研究資金獲得に向けた取組を実施する。 ・ 引き続き芸大創立50周年記念事業募金“愛芸50基金”の獲得に努める。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両大学において、外部資金公募情報の定期的なメール配信、ホームページへの掲載を行うとともに、県立大学では、外部コンサルタントによる「科研費申請の戦略を一から考える」をテーマとした講演会（芸大にも中継）、申請書の添削指導、芸術大学では、採択された研究計画調書の閲覧用資料としての整備を行うなど、外部研究資金獲得に向けた取組を積極的に実施した。 ・ 県立大学グローバル人材育成推進事業の文科省からの補助金終了を踏まえ、事業を発展的に継続するための外部資金獲得に向けた取組を行った結果、29年度より全学で実施する「グローバル実践教育事業」への助成が決定した。（東海東京財団より3百万円） ・ 芸術大学創立50周年記念事業の募金活動に鋭意取り組んだ結果、寄附額は、記念事業の支出総額約56百万円を上回る累計総額73,274,630円（706件）に達した。 <p>【28年度外部資金獲得状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>県立大学</th> <th>芸術大学</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>奨学寄附金</td> <td>18件(19,400千円)</td> <td>257件(27,055千円)</td> </tr> <tr> <td>(うち愛芸50基金)</td> <td>—</td> <td>145件(17,590千円)</td> </tr> <tr> <td>(うち愛芸アソシ基金)</td> <td>—</td> <td>107件(5,105千円)</td> </tr> <tr> <td>受託研究費</td> <td>7件(5,388千円)</td> <td>7件(9,767千円)</td> </tr> <tr> <td>共同研究費</td> <td>11件(16,417千円)</td> <td>1件(1,935千円)</td> </tr> <tr> <td>科研費補助金等</td> <td>148件(124,767千円)</td> <td>9件(15,640千円)</td> </tr> <tr> <td>受託事業費等</td> <td>1件(308千円)</td> <td>14件(26,208千円)</td> </tr> <tr> <td>その他補助金</td> <td>7件(54,383千円)</td> <td>9件(3,338千円)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>192件(220,663千円)</td> <td>297件(83,943千円)</td> </tr> </tbody> </table> <p>[データ集5]</p>		県立大学	芸術大学	奨学寄附金	18件(19,400千円)	257件(27,055千円)	(うち愛芸50基金)	—	145件(17,590千円)	(うち愛芸アソシ基金)	—	107件(5,105千円)	受託研究費	7件(5,388千円)	7件(9,767千円)	共同研究費	11件(16,417千円)	1件(1,935千円)	科研費補助金等	148件(124,767千円)	9件(15,640千円)	受託事業費等	1件(308千円)	14件(26,208千円)	その他補助金	7件(54,383千円)	9件(3,338千円)	計	192件(220,663千円)	297件(83,943千円)	1	Ⅲ	Ⅲ	
	県立大学	芸術大学																																		
奨学寄附金	18件(19,400千円)	257件(27,055千円)																																		
(うち愛芸50基金)	—	145件(17,590千円)																																		
(うち愛芸アソシ基金)	—	107件(5,105千円)																																		
受託研究費	7件(5,388千円)	7件(9,767千円)																																		
共同研究費	11件(16,417千円)	1件(1,935千円)																																		
科研費補助金等	148件(124,767千円)	9件(15,640千円)																																		
受託事業費等	1件(308千円)	14件(26,208千円)																																		
その他補助金	7件(54,383千円)	9件(3,338千円)																																		
計	192件(220,663千円)	297件(83,943千円)																																		

<p>77 効率的、効果的な管理的経費の執行に努めるとともに、業務の見直しによる経費抑制を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 管理事務的な経費の当初予算額を10%程度削減し、経費抑制を推進する。 施設・設備の新設・改修にあたり、省エネルギー型設備の導入を推進する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 予算執行状況の検証・分析等を踏まえ、管理事務的な経費の原則10~20%を削減した上で28年度当初予算額を措置するとともに、29年度予算編成に向け、経常経費に対し原則3%のシーリングをかけて予算調整を行い、組織全体の節減意識の醸成を図った。 引き続き学内のLED照明化や空調設備の新設・更新等を行うなど、設備の省エネルギー化を進めた。また、ECOプロジェクト活動の一環として、県立大学長久手キャンパスでは講義棟西面講義室に日射遮蔽シートのモデル施工を、芸術大学（新音楽学部棟）では音楽教育に影響の少ない方法で暖房効率を向上させるための機器の導入を行うなど、様々な省エネ対策に取り組んだ。 	1	Ⅲ	Ⅲ													
<p>78 (指標) 一般管理費比率について 対前年度比減を目指す。 ※一般管理費比率=一般管理費/(業務費+一般管理費) (特殊要因除き)</p>		<p>「年度計画を十分には実施していない」</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人情報基盤更新、警備・植栽維持管理委託にかかる経費等の増加により、一般管理費比率は7.7%(H27:7.1%)となり、前年度比0.6ポイント増加した。 <table border="1" data-bbox="1115 997 1834 1180"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>業務費</td> <td>6,919,239千円</td> <td>6,917,284千円</td> </tr> <tr> <td>一般管理費</td> <td>532,722千円</td> <td>578,967千円</td> </tr> <tr> <td>一般管理費比率</td> <td>7.1%</td> <td>7.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>一般管理費比率=一般管理費/(業務費+一般管理費) (特殊要因除き) ※金額については、千円未満切り捨て</p>		27年度	28年度	業務費	6,919,239千円	6,917,284千円	一般管理費	532,722千円	578,967千円	一般管理費比率	7.1%	7.7%	1	Ⅱ	Ⅱ	
	27年度	28年度																
業務費	6,919,239千円	6,917,284千円																
一般管理費	532,722千円	578,967千円																
一般管理費比率	7.1%	7.7%																

(ウエイト付けの理由)

第4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

中期目標	自己点検・自己評価や外部評価等を定期的に行うとともに、評価結果を積極的に公表し、教育研究及び業務運営の継続的な改善に結び付ける。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
79 中期計画・年度計画に対する自己点検・自己評価、認証評価等の外部評価を定期的実施し、評価結果を速やかに公表するとともに、教育研究及び業務運営の改善に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画・年度計画に対する自己点検・評価の実施により、教育研究及び業務運営の改善を推進する。 芸術大学において、29年度の認証評価に向けた取組を実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人評価委員会における評価結果についてホームページで公表するとともに、役員会、各大学教研審・委員会等における報告を行うだけでなく、28年度は新たに全課長向けの予算・計画関係会議を開催し、評価委員からの意見・改善の必要性等の説明や意見交換を行った。また、第2期中期計画前半の実績及び評価結果の整理と振り返りを行い、29年度以降の課題や取組について、委員会等において検討した。 29年度の認証評価に向け、外部の認証評価に関する説明会に参加するとともに、教員と職員で構成された認証評価実行委員会を立ち上げ、資料収集、書類作成に取り組んだ。また、認証評価の受審機関である独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から講師を招き、自己評価書の書き方についての説明会を実施した。 県立大学においては、30年度の認証評価に向け、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構所属講師による学内研修の実施や、戦略企画室を中心とした課題の抽出、検討などを行った。 	1	Ⅲ	Ⅲ	

(ウェイト付けの理由)

第4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
2 情報公開等の推進に関する目標

中期目標	大学の教育研究の実績や法人の業務運営等の情報を公表し、県民への説明責任を果たすとともに、戦略的・効果的な広報活動を展開し、大学の知名度を高める。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
80 大学・法人の活動情報を積極的に発信し、県民への説明責任を果たすとともに、大学のブランド・知名度の向上に向けた戦略的な広報活動を展開する。	・広報活動計画に基づき、志願者・学生・卒業生・県民・企業等に対する広報活動を積極的に実施する。	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両大学において入学志願者向けに進学ガイダンスやオープンキャンパス等を引き続き実施するとともに、県立大学では、情報発信サイト（大学情報センター）、新聞広告等による年間を通じた情報発信や、障害者差別解消法への対応も踏まえたホームページのリニューアル（文字サイズ・背景色等への配慮、音声ソフトへの対応等）を行った。また、創立70周年記念事業[参考資料24]を企画・実施し、本学の歴史や特色ある教育研究活動を積極的に発信した。 ・芸術大学では、半世紀にわたる活動の集大成として創立50周年記念事業[参考資料15]を企画し、教員・学生・卒業生が総力をあげ、学内外の様々な場所において数多くの展覧会・演奏会等を実施し、積極的に教育研究成果を発信、大学のブランド・知名度向上を推進した。また、より効果的な広報活動の推進に向け、大学全体の一般広報を芸術情報課総括係へ一極集中し、広報情報の集約と発信力の強化等の取組を実施した。 ・より戦略的な大学一般広報を行うため、法人全体で広報人材育成プロジェクト[参考資料25]に新たに取り組み、広報に関わる事務職員を中心に、新聞記者経験者による記者発表・記者対応等にかかる実践的な講習や他大学の広報担当部署の視察、他大学広報担当者との勉強会を実施するなど、広報活動のノウハウを共有した。 (新聞主要5紙への記事掲載件数(県大)H27:68件→H28:80件、(芸大)H27:83件→H28:106件) 	1	Ⅲ	Ⅲ	

<p>81 平成 28 年度に迎える芸術大学創立 50 周年に際し、県民をはじめ多くの人々にとって芸術大学がより身近な存在となるよう、記念事業を企画し、実施する。</p>	<p>・県民をはじめ多くの人々にとって芸術大学がより身近な存在となるよう、芸術大学創立 50 周年記念事業を実施する。</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半世紀にわたる芸術大学の活動の集大成として創立 50 周年記念事業を企画し、寄附金約 56 百万円（寄附金収入計約 73 百万円）を財源に、県内各所を中心に 13 件の記念事業を教員・学生・卒業生が総力を挙げて推進した結果、メイン事業を始め、様々な企画において多くの来場者があり（計約 27,000 人）、メディアでも高い評価を得るなど、年間を通して県民を始めとする多くの方々に芸術大学がより身近な存在となる機会を創出した。 <p>○創立 50 周年記念事業 〔メイン事業〕</p> <table border="1" data-bbox="1115 726 1828 1272"> <thead> <tr> <th>企画</th> <th>日程・場所・来場者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>創立 50 周年記念式典・祝祭管弦楽団公演</td> <td>28. 5. 24 愛知県芸術劇場 コンサートホール 1,479 人</td> </tr> <tr> <td>創立 50 周年記念展示「芸術は森からはじまる」</td> <td>28. 9. 3～9. 24 愛知県立芸術大学 4,315 人</td> </tr> <tr> <td>創立 50 周年記念オペラ公演ブッチーニ作曲「ラ・ボエーム」</td> <td>28. 9. 25 愛知県芸術劇場 大ホール 1,881 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>〔その他主な事業〕</p> <table border="1" data-bbox="1115 1402 1828 1940"> <thead> <tr> <th>企画</th> <th>日程・場所・来場者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本画専攻企画展示「愛知県立芸術大学模写展～片岡球子が遺した古典模写事業とその後継者たち～」</td> <td>28. 4. 2～5. 29 古川美術館 4,685 人</td> </tr> <tr> <td>創立 50 周年記念国際シンポジウム「異文化へのまなざし」</td> <td>28. 9. 23, 24 愛知県立芸術大学 500 人</td> </tr> <tr> <td>展示「森の DNA 芸術は森からはじまる」</td> <td>28. 11. 18～29. 2. 26 ヤマザキマザック美術館 6,632 人</td> </tr> </tbody> </table>	企画	日程・場所・来場者	創立 50 周年記念式典・祝祭管弦楽団公演	28. 5. 24 愛知県芸術劇場 コンサートホール 1,479 人	創立 50 周年記念展示「芸術は森からはじまる」	28. 9. 3～9. 24 愛知県立芸術大学 4,315 人	創立 50 周年記念オペラ公演ブッチーニ作曲「ラ・ボエーム」	28. 9. 25 愛知県芸術劇場 大ホール 1,881 人	企画	日程・場所・来場者	日本画専攻企画展示「愛知県立芸術大学模写展～片岡球子が遺した古典模写事業とその後継者たち～」	28. 4. 2～5. 29 古川美術館 4,685 人	創立 50 周年記念国際シンポジウム「異文化へのまなざし」	28. 9. 23, 24 愛知県立芸術大学 500 人	展示「森の DNA 芸術は森からはじまる」	28. 11. 18～29. 2. 26 ヤマザキマザック美術館 6,632 人	1	Ⅲ	Ⅲ	
企画	日程・場所・来場者																					
創立 50 周年記念式典・祝祭管弦楽団公演	28. 5. 24 愛知県芸術劇場 コンサートホール 1,479 人																					
創立 50 周年記念展示「芸術は森からはじまる」	28. 9. 3～9. 24 愛知県立芸術大学 4,315 人																					
創立 50 周年記念オペラ公演ブッチーニ作曲「ラ・ボエーム」	28. 9. 25 愛知県芸術劇場 大ホール 1,881 人																					
企画	日程・場所・来場者																					
日本画専攻企画展示「愛知県立芸術大学模写展～片岡球子が遺した古典模写事業とその後継者たち～」	28. 4. 2～5. 29 古川美術館 4,685 人																					
創立 50 周年記念国際シンポジウム「異文化へのまなざし」	28. 9. 23, 24 愛知県立芸術大学 500 人																					
展示「森の DNA 芸術は森からはじまる」	28. 11. 18～29. 2. 26 ヤマザキマザック美術館 6,632 人																					

		創立 50 周年 愛知県立芸術大学 ×名古屋フィルハーモニー交響 楽団 スペシャル・ジョイント・ コンサート	29. 2. 18 愛知県芸術劇場 コンサ ートホール 1, 364 人				
		日本画専攻企画展示「日本画専攻 の半世紀」	29. 1. 14～3. 12 名都美術館 3, 400 人				
		＊その他、専攻別企画、国際交流事業（管打楽器コース）を 実施（項番 63 再掲） [参考資料 1 5]					

(ウェイト付けの理由)

第 5 その他業務運営に関する重要目標

1 施設・設備の活用及び安全管理に関する目標

中期目標	大学施設を良好で安全安心な教育研究環境に保つため、施設の機能保全及び維持管理を計画的に実施するとともに、学生の安全確保、防災対策等の危機管理体制を強化する。 また、大学の施設を開放し、豊かな地域社会づくりに寄与する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェ イト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
82 良好で安心安全な教育研究環境を維持するため、施設・設備の点検を定期的実施するとともに、緊急対応が必要なものについて改修・修繕を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の機能を点検し、緊急度の高いものに対応する。 県大にかかる施設・設備改修計画に基づき、整備方法等を継続検討する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 随時施設・設備の機能点検を実施し、長久手キャンパスの屋根・外壁工事や芸術大学法隆寺金堂壁画模写展示館の防水修繕等、緊急度の高い修繕等を適宜行った。 文教施設セミナーに参加し、県立大学の施設・設備改修計画の推進を検討する上での参考事例の入手と、学校施設の長寿命化の取組についての情報収集を行った。 	1	Ⅲ	Ⅲ	
83 芸術大学の老朽化施設・設備の整備について、耐震改修基本調査の結果を踏まえながら、愛知県の施設整備計画の策定に向け、県と共に引き続き検討を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県が実施する機能回復整備工事及び新デザイン棟実施設計に協力する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛知県による機能回復整備工事については、施設整備委員会、建築環境評価専門部会において施工状況報告を適宜行い、8月末に工事完了、引渡しを受けた。また、新デザイン棟実施設計については、外部有識者からの意見聴取も行いながら、施設整備委員会等において検討し、県に提案するなど協力を行った。 	1	Ⅲ	Ⅲ	

<p>84 大規模災害に備えた安全対策、防災対策などの充実を図り、訓練等の実践を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員及び学生に防災対策の周知を図るとともに、訓練等を実施する。 ・大規模災害の発生に備え、備蓄計画に基づき、計画的に物品等を配備する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震対応マニュアル等を見直し、学生・教職員に配布するとともに、防災訓練と合わせて、屋内消火栓取扱訓練・AED講習会・起震車体験（県大）、煙体験（県大・芸大）など、各種体験の場を提供し、大規模災害に備えた意識啓発を図った。 ・県立大学では、備蓄品購入計画に基づき、備蓄物品の補充及び新規購入を行った。芸術大学では、耐震改修工事等の終了を受け、保管場所の選定を行い、備蓄品の種類・数量・費用等を検討の上、配備した。 	1	Ⅲ	Ⅲ	
<p>85 学内の施設の利用状況を踏まえ、大学施設を積極的に地域社会に開放する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県大グラウンドの外部貸出しを継続するとともに、その他の施設利用希望についても適宜対応する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長久手市内の野球チーム等への県大グラウンドの貸出し26件（H27:2件）を行うとともに、近隣自治体等からの教室等の貸出しに関する問合せを整理し、ニーズを踏まえた上で、29年度からの教室貸出し開始に向け、規程等の見直しを検討した。 	1	Ⅲ	Ⅲ	

（ウエイト付けの理由）

第5 その他業務運営に関する重要目標
2 社会的責任及び法令遵守に関する目標

<p>中期目標</p>	<p>人権の尊重、環境への配慮など、社会的責任に十分留意した教育研究環境の実現や、教育研究等の諸活動に係る法令等の的確な遵守のための取組を推進する。</p>
-------------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウエイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
<p>86 人権の尊重、環境への配慮など、社会的責任に留意した教育研究環境を実現するため、教職員・学生への研修や啓発活動などにより意識向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員及び学生を対象とした人権・ハラスメント研修を継続して実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に新規採用職員を対象とした「人権、倫理、ハラスメント研修」（16名参加）や教職員向けのハラスメント防止のための啓発研修会（県大：215名、芸大：75名参加）を実施した。また、学生向けとして、両大学で新入生ガイダンスにてハラスメント防止のための講習会（県大：768名、芸大：180名参加）を実施するとともに、県立大学では28年度からeラーニング教材による啓発研修（新入生含む818名受講）、芸術大学では啓発用DVDの図書館への配置などを行った。また、県立大学の学務部職員研修として、新たにLGBT研修を実施し、他部局職員へも参加を促した。（42名参加） 	1	Ⅲ	Ⅲ	

	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用促進のために27年度に設置した「業務支援室」の定着及び安定的な活動に向けた取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用促進のために27年度に設置した「業務支援室」について、法人内での周知及び活用促進を図るとともに、毎月業務実績報告を作成するなど、安定的な活動に向けた取組を推進した。 				
87 法令遵守を推進するため、倫理関係諸規程についての継続的な研修や意識啓発に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて倫理審査関係委員会を開催するとともに、コンプライアンス関連研修を実施する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究における倫理的配慮の確保の観点から、研究倫理審査委員会を実施した（県大11回、芸大1回）。また、全職員対象のeラーニングを活用したコンプライアンス研修（222名受講）や、日本学術振興会が提供している研究倫理eラーニングコースの受講を促進し（県大：教員227名、職員40名、学生95名、芸大：教員83名、職員41名、学生80名、研究員等11名受講）、コンプライアンスの意識向上を図った。 	1	III	III	
88 情報管理の強化に向け、情報セキュリティ対策を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の情報リテラシー向上のため、eラーニングによる教育受講を促す。 ・情報課が主導し、法人全体で情報セキュリティ対策を推進する。 	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員・学生を対象に、情報倫理eラーニングを実施し、情報リテラシーの向上に努めた。（職員202名修了（修了率93%）、県大：新任教員10名修了（修了率77%）、新入学生797名修了（91%）、芸大：新任教員2名修了（修了率100%）、新入学生181名修了（修了率92%）） ・新情報基盤ネットワークシステムの更改及びクラウドによるメールシステム（Office365）の新たな導入により、情報セキュリティ対策の強化を図った。また、事務用パソコンの一斉更新時には、一括してパソコンを管理する仕組みであるシンクライアントを導入し、情報セキュリティの向上を図った。 	1	III	III	

(ウェイト付けの理由)

第6 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画

※ 財務諸表及び決算報告書を参照

第7 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績
<p>1 短期借入金の限度額 1 2 億円</p> <p>2 想定される理由 事故の発生等により緊急に必要となる対策費として 借り入れすることも想定される。</p>	<p>1 短期借入金の限度額 1 2 億円</p> <p>2 想定される理由 事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れする ことも想定される。</p>	該当なし

第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

中期計画	年度計画	実績
予定なし	予定なし	該当なし

第9 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績
<p>決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質 の向上及び組織運営の改善に充てる。</p>	<p>・決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組 織運営の改善に充てる。</p>	該当なし

第10 施設・設備に関する計画

中期計画		年度計画	実績			
<table border="1"> <tr> <th>施設・設備の内容</th> <th>財源</th> </tr> <tr> <td>中期計画の達成に必要な施設・設備の整備及び経年劣化が著しく、緊急対応が必要な施設・設備の改修等</td> <td>教育研究環境整備等積立金、その他自己収入等</td> </tr> </table>	施設・設備の内容	財源	中期計画の達成に必要な施設・設備の整備及び経年劣化が著しく、緊急対応が必要な施設・設備の改修等	教育研究環境整備等積立金、その他自己収入等	施設及び設備に関する計画 ・建物外壁及び屋根修繕等（県大） 179,247千円（県大） ・模写展示館漏水対策等（芸大） 40,910千円（芸大）	施設及び設備に関する計画 ・建物外壁及び屋根修繕等（県大） 150,041千円（県大） ・模写展示館漏水対策等（芸大） 45,093千円（芸大）
施設・設備の内容	財源					
中期計画の達成に必要な施設・設備の整備及び経年劣化が著しく、緊急対応が必要な施設・設備の改修等	教育研究環境整備等積立金、その他自己収入等					
注) 中期目標を達成するために必要な業務の実施状況等を勘案した施設・設備の整備や老朽化度合い等を勘案した施設・設備の改修等が追加されることもある。 注) 額については、各事業年度の予算編成過程等において決定される。						

○計画の実施状況等

第11 人事に関する計画

中期計画	年度計画	実績
教育研究機能を始めとする大学の諸機能の充実と活性化並びに法人運営の効率化を進めるための人事制度を運用する。 中期目標を達成するための措置に掲げる人事諸制度の事項について、着実に取り組む。	・中期計画に掲げる人事制度の事項について、着実に取り組む。	「計画の実施状況等」を参照

第12 積立金の使途

中期計画	年度計画	実績
前中期目標期間繰越積立金については、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	・前中期目標期間繰越積立金については、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	該当なし

平成28年度 学部、研究科の定員充足率(H28.5.1現在)

大学名	学部の学科、研究科の専攻名	収容定員		在籍者数 (新・旧合計)		収容定員充足率 (b)/(a)*100 (%)
		(a)	(名)	(b)	(名)	
(新・旧) 県立大学	外国語学部		1,360	1,682		123.7
	英米学科		400	464		116
	ヨーロッパ学科		555	723		130.3
	フランス語圏専攻		185	234		126.5
	スペイン語圏専攻		185	247		133.5
	ドイツ語圏専攻		185	242		130.8
	中国学科		200	252		126
	国際関係学科		205	243		118.5
	日本文化学部		400	461		115.3
	国語国文学科		200	234		117
	歴史文化学科		200	227		113.5
	教育福祉学部		360	397		110.3
	教育発達学科		160	173		108.1
	社会福祉学科		200	224		112
	看護学部		360	368		102.2
	看護学科		360	368		102.2
	情報科学部		360	391		108.6
	情報科学科		360	391		108.6
	学部合計		2,840	3,299		116.2
	国際文化研究科		45	46		102.2
	博士前期 国際文化専攻		20	22		110
	博士前期 日本文化専攻		10	12		120
	博士後期 国際文化専攻		9	7		77.8
	博士後期 日本文化専攻		6	5		83.3
	人間発達学研究科		29	41		141.4
	博士前期 人間発達学専攻		20	32		160
	博士後期 人間発達学専攻		9	9		100
	看護学研究科		54	57		105.6
	博士前期 看護学専攻		42	41		97.6
	博士後期 看護学専攻		12	16		133.3
	情報科学研究科		75	82		109.3
	博士前期 情報システム専攻		20	27		135
	博士前期 メディア情報専攻		20	22		110
博士前期 システム科学専攻		20	20		100	
博士後期 情報科学専攻		15	13		86.7	
大学院合計		203	226		111.3	

【参考】旧県立大学在籍者数

大学名	学部の学科、研究科の専攻名	在籍者数 (名)
(旧) 県立大学	文学部	2
	国文学科	1
	英文学科	0
	日本文化学科	1
	児童教育学科	0
	社会福祉学科	0
	外国語学部	3
	英米学科	0
	フランス学科	0
	スペイン学科	1
	ドイツ学科	2
	中国学科	0
	文学部	3
	国文学科	1
	英文学科	0
	日本文化学科	2
	児童教育学科	0
	社会福祉学科	0
	外国語学部	1
	英米学科	1
	フランス学科	0
	スペイン学科	0
	ドイツ学科	0
	中国学科	0
	情報科学部	0
	情報システム学科	0
	地域情報科学科	0
	昼間主計	5
	夜間主計	4
	学部計	9
	国際文化研究科前期 国際文化専攻	0
	国際文化研究科後期 国際文化専攻	0
	情報科学研究科前期 情報科学専攻	0
情報科学研究科後期 情報科学専攻	0	
大学院合計	0	

看護大学	看護学部	看護学科	0
	看護学研究科	修士課程	0

平成28年度 学部、研究科の定員充足率(H28.5.1現在)

大学名	学部の学科、研究科の専攻名	収容定員		在籍数		収容定員充足率		
		(a)	(名)	(b)	(名)	(b)/(a)*100 (%)		
芸術大学	美術学部		380		399	105		
		美術科		200		216	108	
				40		44	110	
				100		108	108	
				40		41	102.5	
				20		23	115	
		デザイン・工芸科		180		183	101.7	
				140		143	102.1	
				40		40	100	
		音楽学部		400		411	102.8	
			音楽科		400		411	102.8
					40	42	105	
					120	118	98.3	
					240	251	104.6	
		学部計		780		810	103.8	
		美術研究科		95		98	103.2	
			博士前期 美術専攻		80	87	108.8	
		博士後期 美術専攻		15	11	73.3		
	音楽研究科		69		70	101.4		
		博士前期 音楽専攻		60	61	101.7		
		博士後期 音楽専攻		9	9	100		
	大学院合計		164		168	102.4		